

四條畷市埋蔵文化財包蔵地調査概報13

忍ヶ丘駅前遺跡発掘調査概要・Ⅱ

——四條畷市岡山所在——

1983・3

四條畷市教育委員会

四條畷市埋蔵文化財包蔵地調査概報13

忍ヶ丘駅前遺跡発掘調査概要・Ⅱ

——四條畷市岡山所在——

1983・3

四條畷市教育委員会

は し が き

本市北部の洪積期に生成した忍ヶ岡丘陵の西端には、著名な古墳時代前期の忍岡古墳が所在し、またこの地は大阪夏の陣の折、徳川秀忠が本陣を置き戦斗指揮をとった所でもある。忍ヶ岡丘陵の北を流れる讚良川畔、新池付近には、旧石器、縄文・古墳の各時代の遺物の出土があり、白鳳時代創建にかかる讃良寺の跡もこの地に所在している。国鉄片町線複線化に伴う発掘調査、並びに府道枚方・富田林・泉佐野線のバイパス工事、その他宅地造成に伴う緊急調査によって、国鉄忍ヶ丘駅周辺は、旧石器、縄文・古墳時代より中・近世に至る多くの遺物遺構が発見され、往時のこの地方の文化解明に数多くの資料を提供してきた。

このたび昭和57年度の国庫補助事業により実施した忍ヶ丘駅前遺跡緊急発掘調査の概要報告をまとめる運びとなったが、調査地からは中世（室町時代）を中心とする井戸の遺構が12ヶ所発見され、その内の1遺構は石組の側壁をのこしており、この地で最後まで井戸の活用が行われたものと考えられる。

この場所は忍ヶ岡丘陵が東から西へのびる中央鞍部に位置し東高野街道が調査地の西側を通っており、この地が街道交通の重要な位置であったものと考えることができるであろう。

今回の調査に当っては、本市教委の技師野島稔がこれを担当し、大阪府教委ならびに山口博、瀬川芳則両先生の指導を得ると共に岡嶋利治氏をはじめ各位のご協力をいただき無事調査を完了することができたものである。ご協力をいただいた各位に深甚なる謝意を表する次第である。

四條畷市教育委員会

教育長 櫻 井 敬 夫

例　　言

1. 本書は、四條畷市教育委員会が、昭和57年度国庫補助金事業(総額2,000,000円、補助率——国庫50%、府費25%)の交付を受けて担当実施した四條畷市岡山所在忍ヶ丘駅前遺跡の発掘調査事業の概要報告書である。
2. 調査は、昭和57年6月1日に着手し昭和58年3月31日まで調査及び整理作業を行なった。
3. 発掘調査は、四條畷市教育委員会社会教育課技師・野島 稔を担当者とし、補助員として、堂元栄一郎があたった。
出土遺物の整理・実測などについては、野島 稔・堂元栄一郎・川本 英・川本三智子・秋山敬子・上野和歌子があたった。
4. 本書の執筆は、野島 稔が行なった。
5. 発掘調査の進行・報告書作成などについては、同志社大学・瀬川芳則、広島県草戸千軒町遺跡研究所・松下正司、大阪府教育委員会・堀江門也・田中和弘、東大阪市教育委員会・下村晴文、寝屋川市教育委員会・塩山則之、大東高校・山口 博、畠古文化研究保存会、枚方市文化財研究調査会・宇治田和生・三宅俊隆・桑原武志、前田 暉、木下義秋、南野智子、竹本美穂、西尾牧子の諸機関、諸氏から種々のご教示をうけた。明記して厚く感謝の意を表したい。
6. 発掘調査の進行については、土地所有者岡嶋利治氏には終始懇切なご協力をうけることができた。又調査作業については、株式会社森組、株式会社中田工務店の全面的な協力を得た。

本文目次

はしがき

例　　言

I	調査に至る経過	1
II	遺跡の位置と歴史的環境	4
III	調査概要報告	
	A. 層　　序	8
	B. 遺　　構	11
	a 井 戸	11
	b 溝	15
	c 土 壤	15
	d 掘立柱建物跡	15
IV	出土遺物	16
V	ま　　と　め	28
VI	掲載遺物観察表	31

挿入目次

- 第1図 忍ヶ丘駅前遺跡調査地位置図
- 第2図 忍ヶ丘駅前遺跡周辺地形遺跡分布図
- 第3図 忍ヶ丘駅前遺跡遺構配置図
- 第4図 SE-001石組井戸平面及び断面実測図
- 第5図 井戸断面及び土壤内土器出土平面実測図
- 第6図 出土土器実測図・I
- 第7図 出土土器実測図・II
- 第8図 出土土器III・石製品実測図
- 第9図 出土木製品実測図
- 第10図 出土土器実測図・IV
- 第11図 出土土器V・石製品実測図

図 版 目 次

- 図版1 遺跡周辺の航空写真
- 図版2 忍ヶ丘駅前遺跡周辺航空写真
- 図版3 調査地全景
- 図版4 遺構検出状況
- 図版5 遺構全景
- 図版6 遺構全景
- 図版7 石組井戸（SE-001）全景
- 図版8 井戸断面
- 図版9 井戸断面
- 図版10 井戸断面及び土壌内遺物出土状況
- 図版11 遺物写真・土器Ⅰ
- 図版12 遺物写真・土器Ⅱ・石製品
- 図版13 遺物写真・埴輪
- 図版14 遺物写真・土器Ⅲ
- 図版15 遺物写真・土器Ⅳ
- 図版16 遺物写真・土器Ⅴ
- 図版17 遺物写真・土器Ⅵ
- 図版18 遺物写真・土製品・石製品
- 図版19 遺物写真・木製品Ⅰ
- 図版20 遺物写真・木製品Ⅱ
- 図版21 遺物写真・土器Ⅶ
- 図版22 遺物写真・土器Ⅷ
- 図版23 遺物写真・土器Ⅸ・石製品

忍ヶ丘駅前遺跡発掘調査概要・II

I 調査に至る経過

忍ヶ丘駅前遺跡は、国鉄片町線忍ヶ丘駅を中心とする北は旧坪井踏切から南は南山下踏切に至る約250mの範囲を周知の遺跡としている。この遺跡のある忍ヶ岡丘陵には、住宅・スーパー・マーケット・工場が密集する地域であり、今回の調査地は駐車場として長く使用されており、かろうじて残されている状態である。

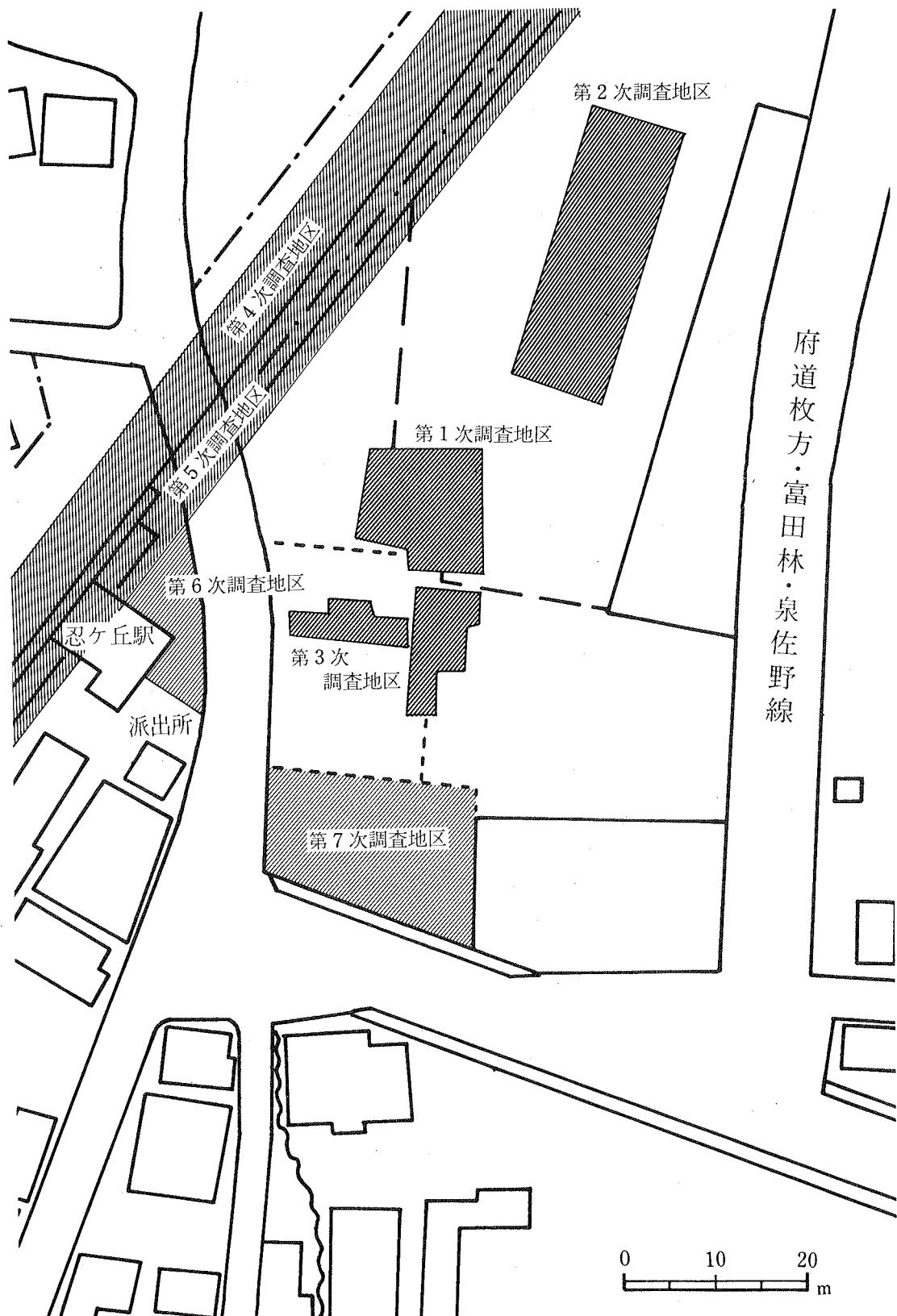
昭和45年、府道枚方・富田林・泉佐野線新設バイパスの一部工事中に奈良時代から鎌倉時代頃の土器片を採集されたことによって忍ヶ丘駅前遺跡と命名された。

昭和51年に四條畷市教育委員会が枚方信用金庫忍ヶ丘支店建設予定地として忍ヶ丘駅前第1次発掘調査を実施した。その結果、表土下約50cmのT・P 海抜24mから幅約4m、長さ約13mの旧河川が検出した。旧河川内は3層の土砂が堆積し室町時代初期の土師質皿・瓦器碗・羽釜・練鉢・摺鉢・瀬戸焼おろし皿・白磁と滑石製石鍋・砥石とともに草履状木製品・蘆編具・ヘラ状木製品・曲物底板・下駄・漆器碗・呪符等の多種にわたる土器・木製品が出土した。

第1次調査終了と同時に第1次調査の北側にマンション建設予定地を第2次調査として市教育委員会が実施した。調査面積は約330m²で検出された遺構は石組井戸1基・素掘井戸1基・土壙7基・掘立柱建物跡・溝状遺構がそれぞれ検出した。石組井戸の規模は、内径約0.8m、深さ約2.1mである。出土遺物は土師質皿・瓦器碗・羽釜・三脚羽釜・縁釉皿とともに古墳時代中期の無蓋高杯・土師器甕・縄文時代の石鏃も出土している。

同年に第3次調査を第1次調査の南側隣接地に電機店建設予定地として調査を実施した。その結果、溝状遺構・掘立柱建物跡・石組井戸1基・素掘井戸1基が検出した。石組井戸の規模は内径約0.8m、深さ約1.8mである。出土遺物は井戸内から土師質皿・瓦器碗・羽釜・溝状遺構内から砥石・硯が土器とともに出土している。

同年に国鉄片町線複線化に伴う発掘調査を上り線の全面にわたって第4次発掘調査区として実施し、この際に坪井踏切から南山下踏切の間の250mが鎌倉時代末期から室町時代初期にかけての集落跡であったために遺跡範囲を拡大した。調査の結果、忍ヶ丘駅舎内から石組井戸1基・素掘井戸2基・溝状遺構・落ち込み状遺構・土壙等が検出した。出土遺物は第1次から第3次にわたる調査と同一時期の土器が出土しており、第2次調査中に出土していた古墳時代遺物について不明確な出土であったが、第4次調査において古墳時代の



第1図 忍ヶ丘駅前遺跡調査地位置図

有蓋高杯・杯身・杯蓋の須恵器とともに土師器甕・円筒埴輪が古墳時代包含層内から出土している。古墳時代の遺構・遺物についての問題点をまとめ少しふれることにしておきたい。

昭和53年に第5次調査として片町線の下り線の全面調査を実施した結果、曲物井戸及び石組井戸とともに古墳時代中期から後期にかけての須恵器壺・横蓋・竈・形象埴輪・円筒埴輪がそれぞれ出土している。

昭和57年の忍ヶ丘駅前整備に伴う調査を第6次調査として忍ヶ丘駅前派出所北側において実施した結果、溝状遺構及び落ち込み状遺構が検出し、遺構内から鎌倉時代の瓦器椀・土師質皿・木製盤が出土した。

過去6回にわたる調査地は忍ヶ岡丘陵を横切る形で調査を実施したもので、今回の調査地は第3次調査地の南側隣接地の駐車場に住宅建設計画がなされ、過去の数多くの遺構・遺物の関連を目的に試掘調査を実施した際、鎌倉時代から室町時代にわたる井戸が検出し、国庫補助金事業として四條畷市教育委員会が本格調査を実施したものである。

II 遺跡の位置と歴史的環境

忍ヶ丘駅前遺跡は大阪府四條畷市岡山に所在する。四條畷市は大阪府の東北部に位置し、東部は山間部を経て奈良県に接しており、西は寝屋川市、南は大東市、北部は交野市に隣接する東経 $135^{\circ}38'$ 北緯 $34^{\circ}44'$ にある。地勢の東半分は生駒山系支派の山地となり、主として第3期層花崗岩によって形成された地質である。北部平坦地は、これら山地から流出された砂礫による沖積層となっている。

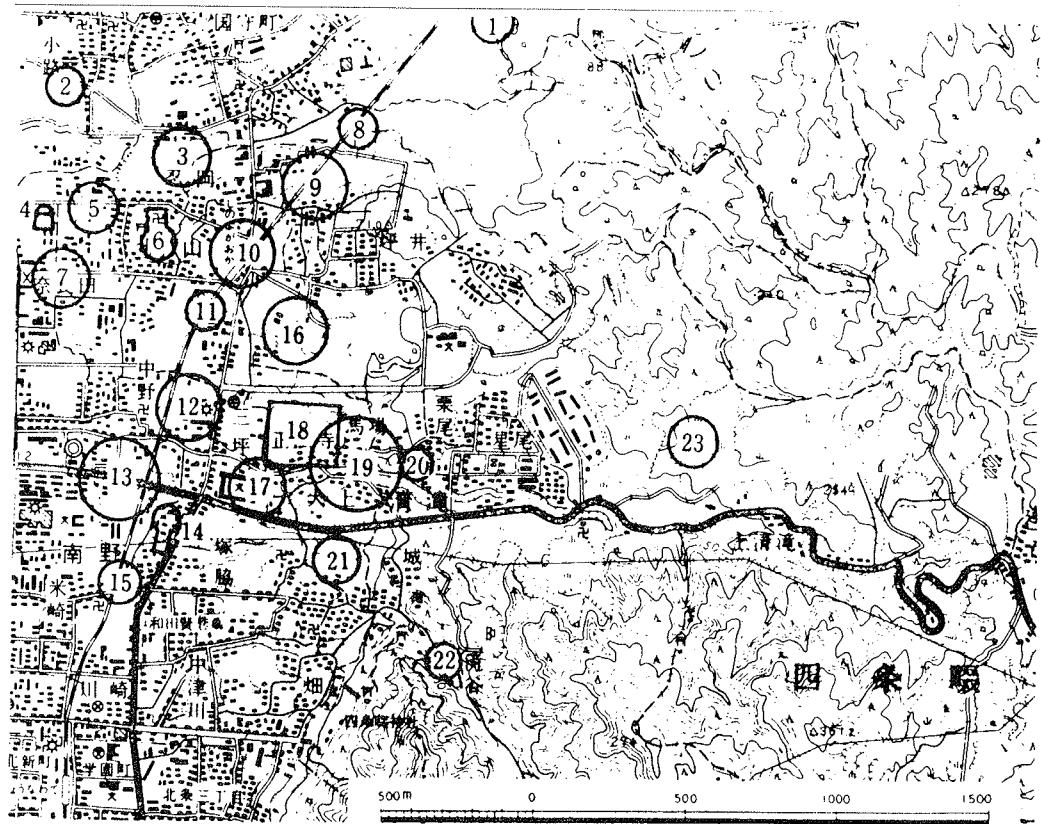
四條畷市のほぼ中央部を南北に通じる東高野街道沿いには、中世の掘立柱建物跡、井戸等の遺構が存在し、又、東西に通じる清滝街道沿いには、中世の清滝・逢阪千軒と呼ばれた中世村落として栄えていた。このように陸路交通の要地として重要な位置を占めていたことは、原始・古代を通じて同様、文化的先進地域の様相を呈し、多くの遺跡の存在が知られている。

当遺跡は生駒山系の西側斜面から派生する洪積層の海拔約25mの丘陵地形を利用して立地している。東の生駒山系から流出する水は讚良川・清滝川・権現川の3河川によって寝屋川を経て大阪湾に注いでいる。

今回の調査地は讚良川の左岸と清滝川の右岸のほぼ中間に位置する所から発見されている。

生駒山系の西側斜面は、生駒山から飯盛山をへて交野へ、そして枚方台地へと続いており、北端は八幡丘陵から南は南野丘陵までの淀川左岸に広がる広大な丘陵・段丘がある。この枚方台地は大きく北から船橋川・穂谷川・天野川・寝屋川・讚良川・清滝川・権現川の中小河川によって開かれたところである。

最近になって旧石器時代の遺跡発見例が数多く認められるようになった。枚方台地の旧石器時代遺跡としては、国府期のナイフ形石器・有舌尖頭器・石核・翼状剝片が出土した枚方市楠葉東遺跡、現在関西外国語大学テニスコートになっている小倉東遺跡から舟底形石器が出土し、交北城の山遺跡から国府型ナイフ形石器・田ノ口山遺跡から小型舟底形石器・星ヶ丘西遺跡から国府型ナイフ形石器・舟底形石器、藤阪南遺跡から木葉状尖頭器、藤阪宮山遺跡から石核・剝片・国府型ナイフ形石器・刃器、津田三ツ池遺跡から国府型ナイフ形石器・搔器・槌石・剝片・石核、藤田土井山遺跡から木葉状尖頭器、鷹塚山遺跡からスクレーパーが出土している。交野市においては、神宮寺遺跡から握斧・国府型ナイフ形石器・有舌尖頭器、寝屋川市においては、太秦遺跡でナイフ形石器、高宮遺跡でナイフ形石器、打上遺跡でナイフ形石器、最後に四條畷市においては、更良岡山遺跡で大形礫器・国府型ナイフ形石器・削器・彫器・舟底形石器・チョッパー・細石器、忍ヶ丘遺跡でナイフ形石器、忍陵遺跡からナイフ形石器、南山下遺跡から有舌尖頭器、岡山南遺跡から木葉



第2図 忍ヶ丘駅前遺跡周辺地形遺跡分布図

- | | | |
|---------------|-------------|---------------|
| 1. 打上遺跡 | 8. 国守遺跡 | 16. 岡山南遺跡 |
| 2. 小路遺跡 | 9. 坪井遺跡 | 17. 四條畷小学校内遺跡 |
| 3. 讃良川遺跡・讚良寺跡 | 10. 忍ヶ丘駅前遺跡 | 18. 正法寺跡 |
| 4. 四條畷市銅鐸出土地 | 11. 南山下遺跡 | 19. 清滝古墳群 |
| 5. 北口遺跡 | 12. 奈良井遺跡 | 20. 国中遺跡 |
| 6. 忍ヶ丘古墳 | 13. 中野遺跡 | 21. 本間遺跡 |
| 7. 奈良田遺跡 | 14. 墓の堂古墳 | 22. 龍尾寺跡 |
| | 15. 南野遺跡 | 23. 千畳敷遺跡 |

状尖頭器、田原遺跡からナイフ形石器がそれぞれ出土している。枚方台地周辺において旧石器が出土した遺跡は現在のところ20遺跡であり旧石器文化研究上きわめて重要な位置をしめている。

縄文時代には米粒文・山形文を施した押型文土器を特徴とする土器が出土する交野市神宮寺遺跡・四條畷市田原遺跡・東大阪市神並遺跡が発掘調査で発見されている。又、枚方

市穂谷遺跡・大東市寺川堂山においても早期の土器が出土している。

前期には寝屋川市高宮遺跡において出土した縄文式土器は薄手で前期の可能性が出てきている。

中期には渦巻文や半截竹管文をもつ船元式土器を出土する四條畷市南山下遺跡・砂遺跡、交野市星田旭遺跡があり、後期・晩期にはほぼ完形の高杯形土器・深鉢形土器・注口土器・土偶・石器が数多く出土した更良岡山遺跡・清滝古墳群においても石鎚・深鉢形土器が出土する。

枚方市交北城の山遺跡において滋賀里式系の深鉢形土器を転用した埋葬遺構が発見されている。

弥生時代については、四條畷市田原遺跡において畿内第Ⅰ様式新の壺が出土した。又、国道170号線沿いの海拔約4mの四條畷市雁屋遺跡から畿内第Ⅰ様式新の甕が最近出土しており、古代河内湾の時代で最北端であった大東市中垣内遺跡より北約2.7kmの位置に遺跡が発見され古代河内湾沿いの弥生文化研究上きわめて重要なものである。

中期初頭の畿内第Ⅱ様式の時期に出現する高地性集落の寝屋川市太秦遺跡や第Ⅲ様式～第Ⅳ様式に認められる直径11.5mの巨大な竪穴式住居跡をもつ田ノ口山遺跡、交北城の山遺跡で第Ⅱ様式から始まる方形周溝墓42基・竪穴式住居跡8棟・土壙・高床式建物跡が検出された場所は穂谷川水系沿いに立地している。

後期の第Ⅴ様式になると枚方市・交野市・寝屋川市の淀川左岸地域においては数多く点在する。代表的なものとしては、小型彷彿鏡や分銅形土製品が出土した鷹塚山遺跡、六角形の竪穴式住居跡が発見された山之上天堂遺跡、鹿の絵の線刻した土器が出土した藤田山遺跡、住居と墓地をV字溝において分離した星ヶ丘西遺跡、一棟の竪穴式住居跡から鉄鎌を含む53個の鉄器片が出土した星ヶ丘遺跡があげられる。

古墳時代について見ると、眼下に淀川を見下ろす水運との関係を考えなければならず、又8面の銅鏡を出土した万年寺山古墳、直径25mの円墳と考えられ画文帶環状乳神獸鏡1面・銅鏡6本・鏡形石製品2個他を出土した藤田山古墳、粘土櫛内から硬玉製勾玉・ガラス製小玉・碧玉製管玉・鉄劍・刀子を出土した交野市妙見山古墳、全長約80mの前方後円墳で後円部に長さ約6.3m、幅約1mの竪穴式石室を今なお見ることのできる忍岡古墳がある。

交野市の森古墳群から前方後円墳と円墳を含む8基の前期古墳群が確認されており、眼下に巴形銅器・筒形銅器を出した交野車塚古墳、中期になると枚方市禁野車塚古墳、牧野車塚古墳、四條畷市墓の堂古墳がある。後期になると生駒山系西麓に数多く分布しており、特に大東市堂山古墳群・四條畷市清滝古墳群・更良岡山古墳群・交野市寺古墳群・倉治古墳群・枚方市中宮古墳群・臼雉塚・比丘尼塚・北河内最大の横穴式石室をもつ寝屋川市寝屋古墳、終末期には国史跡指定されている石ノ宝殿古墳がよく知られている。

古墳時代の集落跡の発見は、四條畷市が大半を占めている。四條畷市岡山南遺跡の大溝内から切妻造りの家形埴輪に5個の堅魚木をつけたものや、円筒埴輪・衣蓋埴輪・動物埴輪とともに木製下駄も出土している。中野遺跡においては5世紀後半の製塙土器や最古形式の須恵器とともに勾玉・臼玉・紡錘車・木製剣が多量の土器とともに出土している。隣接地の奈良井遺跡には実際に製塙作業を行った石敷製塙炉及び1辺約40mの方形周溝遺構の祭祀場が検出し、周溝内から多量の土器とともに手捏ね土器・人形土製品・動物形土製品・滑石製品がそれぞれ一括で出土している。又同一溝内から小型の蒙古系馬が埋葬されていた。古代から中世にかけての遺跡は各市において数多く知られている。

III 調査概要報告

今回の調査地点は、四條畷市岡山東2丁目420-1で、忍ヶ岡丘陵のほぼ中央部に位置し、調査対象地は旧水田地であった。

調査は、昭和57年11月1日に調査地中央部に幅約2m、長さ約15mのトレンチを東西方向に設定して遺構の保存状態及び基本的な層序の確認を行なった。

区画設定は、調査地外の南にある歩道敷コーナ鉄基準に方位によって南北ラインをBラインとして5m区画で西側からAライン、Bライン、Cライン、Dライン、Eラインと縦軸を命名し、南北、横軸は北端から5m毎に算用数字の01、02、03、04をあてて区画を設定した。それ故1区画は25m²の面積を有する。

A. 層序

調査地の01ラインの基本層序は、上から第Ⅰ層（盛土）、第Ⅱ層（旧耕土）、第Ⅲ層（床土）、第Ⅳ層（褐色砂質土）、第Ⅴ層（淡褐色砂質土）となる。各層は東から西へ、南から北へと傾斜し、特に遺構のベース面（第Ⅵ層直上）においては南西隅C-04ポイントと南東隅のE-04ポイントで約20cmの比高差が認められた。

第Ⅰ層 盛土

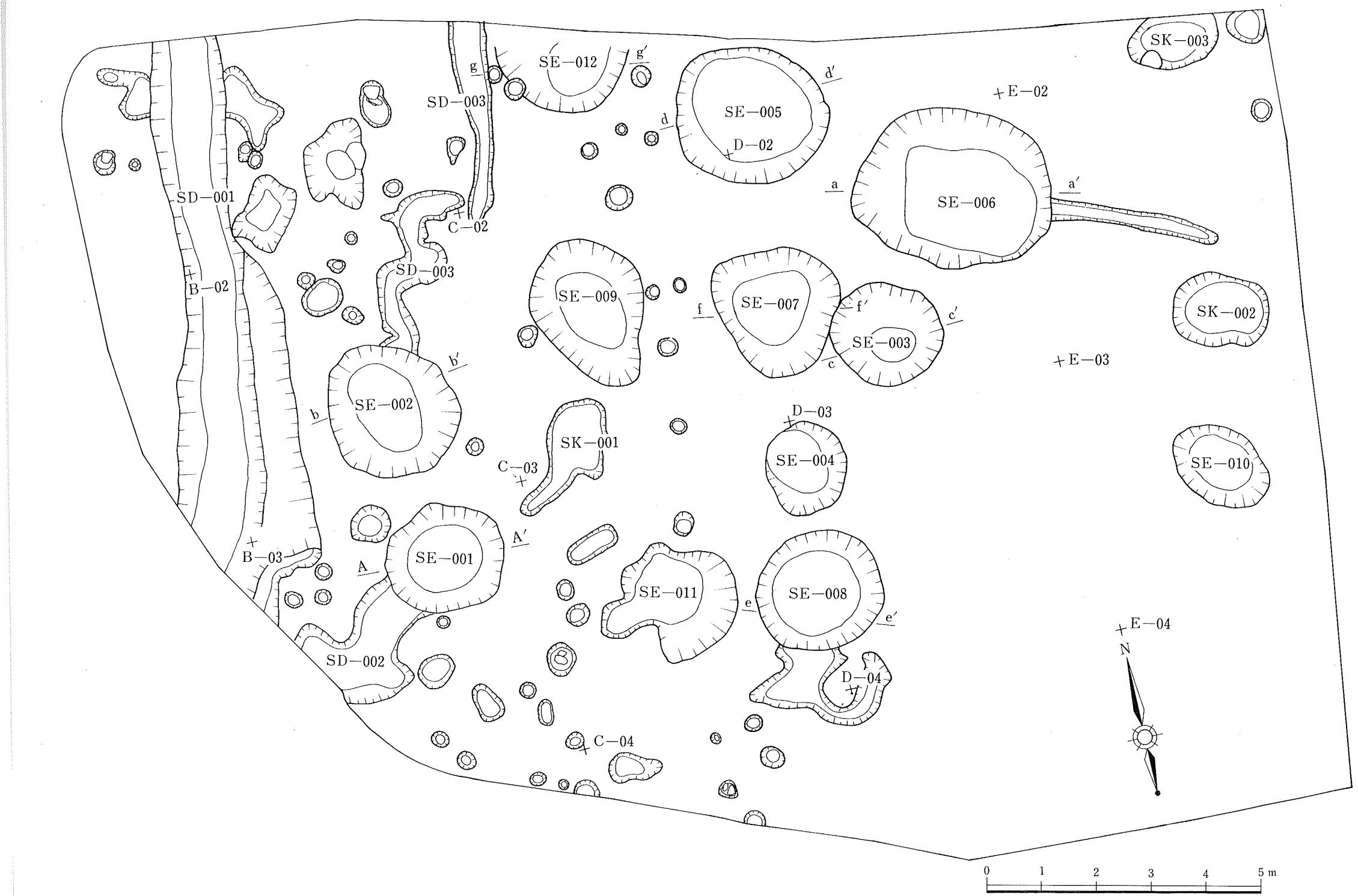
第Ⅱ層 旧耕土

第Ⅲ層 床土。ほぼ東西水平に床土が置かれている。

第Ⅳ層 厚さ約20~30cmで全域に認められる。瓦器椀・土師質小皿・土釜・擂鉢・練鉢・瓦・須恵器が出土しており、鎌倉時代末~室町時代の包含層である。

第Ⅴ層 厚さ約10~20cmで全域に認められる。遺構のベース面を構成している。ベース面は先ほどにも述べたように東から西へ、南から北へと傾斜しており、第1次調査の際検出した大溝の流路とほぼ同じ南から北であり、これは地形を利用したものである。

この層内から瓦器椀・土師質小皿・須恵器・瓦質土器がそれぞれ出土している。



第3図 忍ヶ丘駅前遺跡遺構配置図

B. 遺構

今回の調査で検出した主な遺構には井戸12・溝5・土壙3・掘立柱建物跡などがある。このうち井戸12・溝3・土壙2・掘立柱建物跡などの遺構が室町時代の生活面である黄褐色砂質土層から掘り込まれているが、井戸遺構についての切合い関係や出土遺物からみて約1世紀の間と考えている。

a 井戸 今次調査区で検出した井戸は、石組1基以外はすべて素掘の状況で検出した。

SE-001は調査区南西部にあるB-03地区内に内径75cm×85cmの円形石組をもつ井戸であり、黄褐色砂質土で径約2.3m×1.9mの掘方を検出した。わりあい大きな花崗岩(直径15~30cm)の石積みで、花崗岩の裏ごめには河原石を使用している。又、石組の間には瓦磧を1点使用している。上面の高さT・P24.50m、底の高さT・P22.70m、深さ1.8mである。井戸の底には9個の花崗岩を円形に配列させ、レベルを合わせた施設が認められている。井戸内から瓦器椀・土師質小皿・須恵器壺・円筒埴輪片が出土した。

この井戸は調査中水が涌出しており、又他の井戸内から出土する瓦器椀とを比較検討した結果、瓦器椀の貼付け高台がほぼ消滅する時期であり、この村落の最後まで使用されていた井戸であろう。

SE-002はSE-001のすぐ北B-02地区内に検出されたもので径2.2m×2.4mの円形の掘方である。上面の高さT・P 24.40m、底の高さT・P 22.90m、深さ1.5m、堆積土層は、第Ⅰ層褐色砂質土、第Ⅱ層黄褐色砂質土、第Ⅲ層黄灰色砂質土、第Ⅳ層黄灰褐色砂質土、第Ⅴ層淡灰褐色砂質土、第Ⅵ層白灰色砂質土、第Ⅶ層青灰色砂質土、第Ⅷ層灰色砂質土、第Ⅸ層灰色粘質土、第Ⅹ層灰色砂層である。

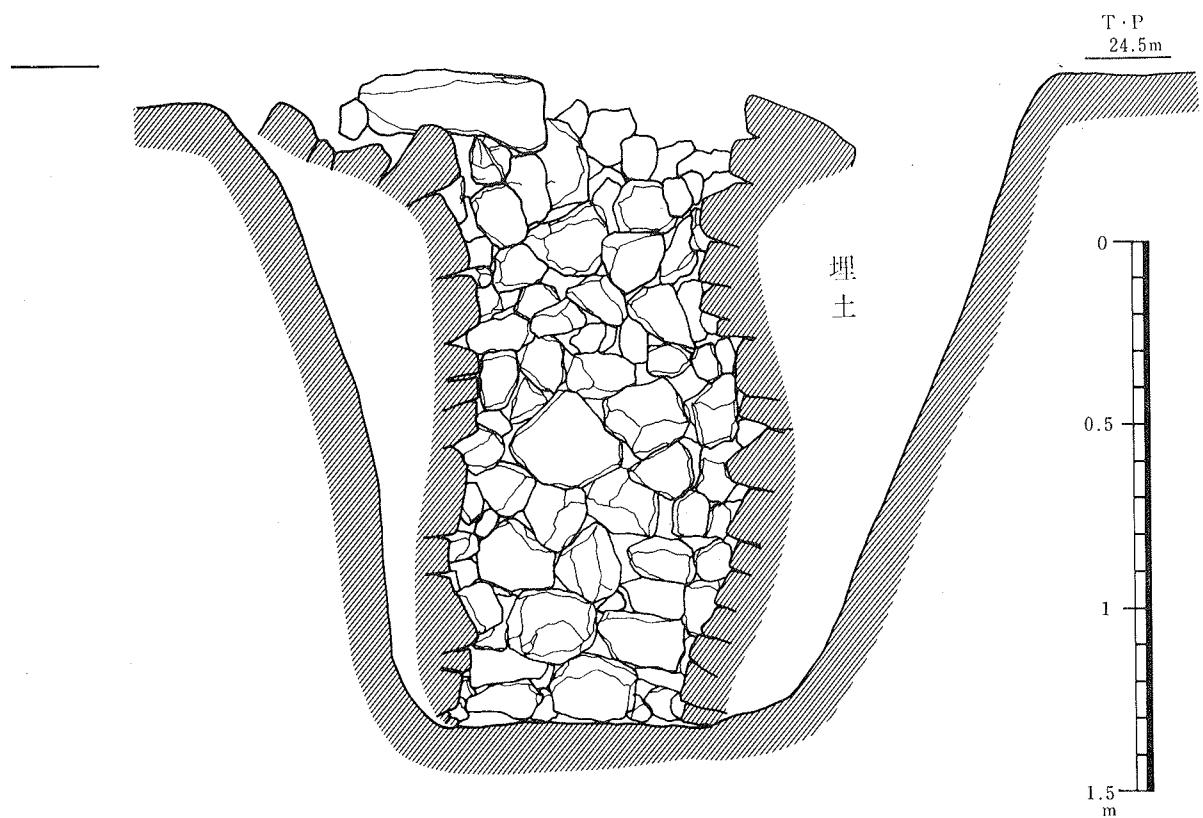
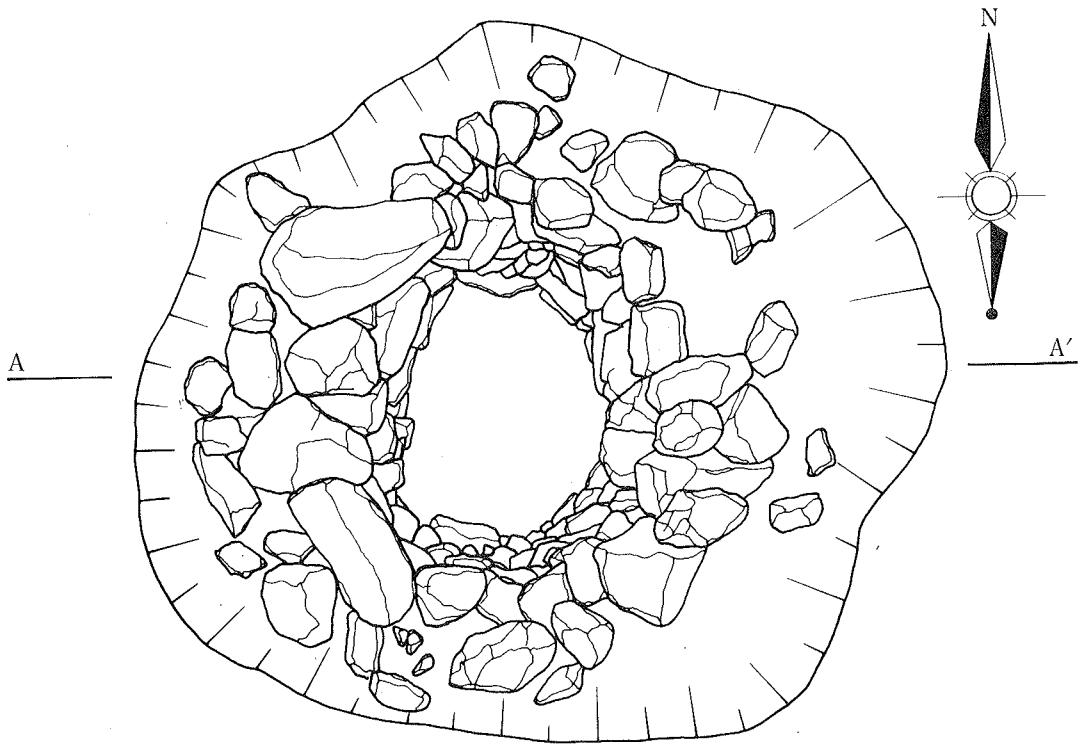
第Ⅰ層内から須恵質練鉢・土師質小皿・瓦器椀・羽釜・第Ⅶ層内から砥石・埴輪片がそれぞれ出土している。

SE-003はD-02地区内に後に述べるSE-007の一部の切合いをもって検出した。径2.0m×1.9mの円形の掘方である。上面の高さT・P 24.40m、底の高さT・P 23.25m、深さ1.15m、堆積土層は、第Ⅰ層褐色砂質土、第Ⅱ層灰色粘質土、第Ⅲ層青灰色砂質土、第Ⅳ層灰褐色粘質土、第Ⅴ層青色砂層、第Ⅵ層黄褐色砂層、第Ⅶ層青黄褐色砂層、第Ⅷ層淡灰色砂層、第Ⅸ層黄白色砂層、第Ⅹ層黒色粘土層である。

第Ⅰ層内から土師質小皿・瓦器椀・瓦質土器が出土している。

SE-004はC-03地区とD-03地区にわたり検出されたもので径1.4m×1.7mの円形の掘方である。上面の高さ、T・P 24.25m、底の高さ、T・P 23.40m、深さ、0.85mである。第Ⅰ層灰色粘質土から土師質小皿・瓦・羽釜・把手付鍋が出土している。

SE-005は、D-01地区内に検出した径2.7m×2.6mの円形の掘方である。上面の高



第4図 SE-001石組井戸平面及び断面実測図

さ T・P 24.50m、底の高さ T・P 23.20m、深さ1.3m、堆積土層は、第Ⅰ層黃褐色砂質土、第Ⅱ層黃灰褐色砂質土、第Ⅲ層淡褐色砂質土、第Ⅳ層灰褐色砂質土、第Ⅴ層黑色粘土層、第Ⅵ層灰色粘土層、第Ⅶ層褐色砂質土、第Ⅷ層黃灰色砂質土、第Ⅸ層青色砂層、第Ⅹ層青色砂細層、第Ⅺ層青黑色粘質土、第Ⅻ層灰青色砂質土、第Ⅼ層青灰色砂質土、第Ⅽ層白褐色砂層、第Ⅾ層青白色砂層、第Ⅿ層黃青灰色砂質土、第ⅰ層青色砂層(小礫混り)、第ⅲ層黃青色粘質土、第ⅳ層黃青灰色粘質土である。第Ⅰ層及び第Ⅲ層内から土師質小皿・瓦器椀・土師質土器・須恵質土器が出土している。

S E-006はD-02地区内に検出した径3.6m×3.0m、この調査区で最大の掘方である。上面の高さ T・P 24.50m、底の高さ 23.0m、深さ 1.5m、堆積土層は第Ⅰ層から第Ⅲ層内に攪乱を受けており、掘方、東側において溝状遺構内に近世の磁器片が1点出土しており、溝はこの時期のものかと考えられる。攪乱層は a. 淡黃褐色砂質土、b. 青灰色砂層、c. 灰黒色粘土層となっている。第Ⅰ層黃褐色砂質土、第Ⅱ層黃褐色砂層、第Ⅲ層青色砂層、第Ⅳ層青灰色砂質土、第Ⅴ層灰黒色粘土層、第Ⅵ層青灰色砂層(ブロック状に第Ⅴ層が入る) 第Ⅶ層青灰色粘土層、第Ⅷ層青灰色粘土層(ブロック状に砂混り) 第Ⅸ層青灰色粘質土、第Ⅹ層白色砂層、第Ⅺ層黒灰色粘土層、第Ⅻ層黒灰色粘質土、第Ⅼ層灰褐色粘土層である。第Ⅲ層内から羽釜・瓦器椀が出土している。

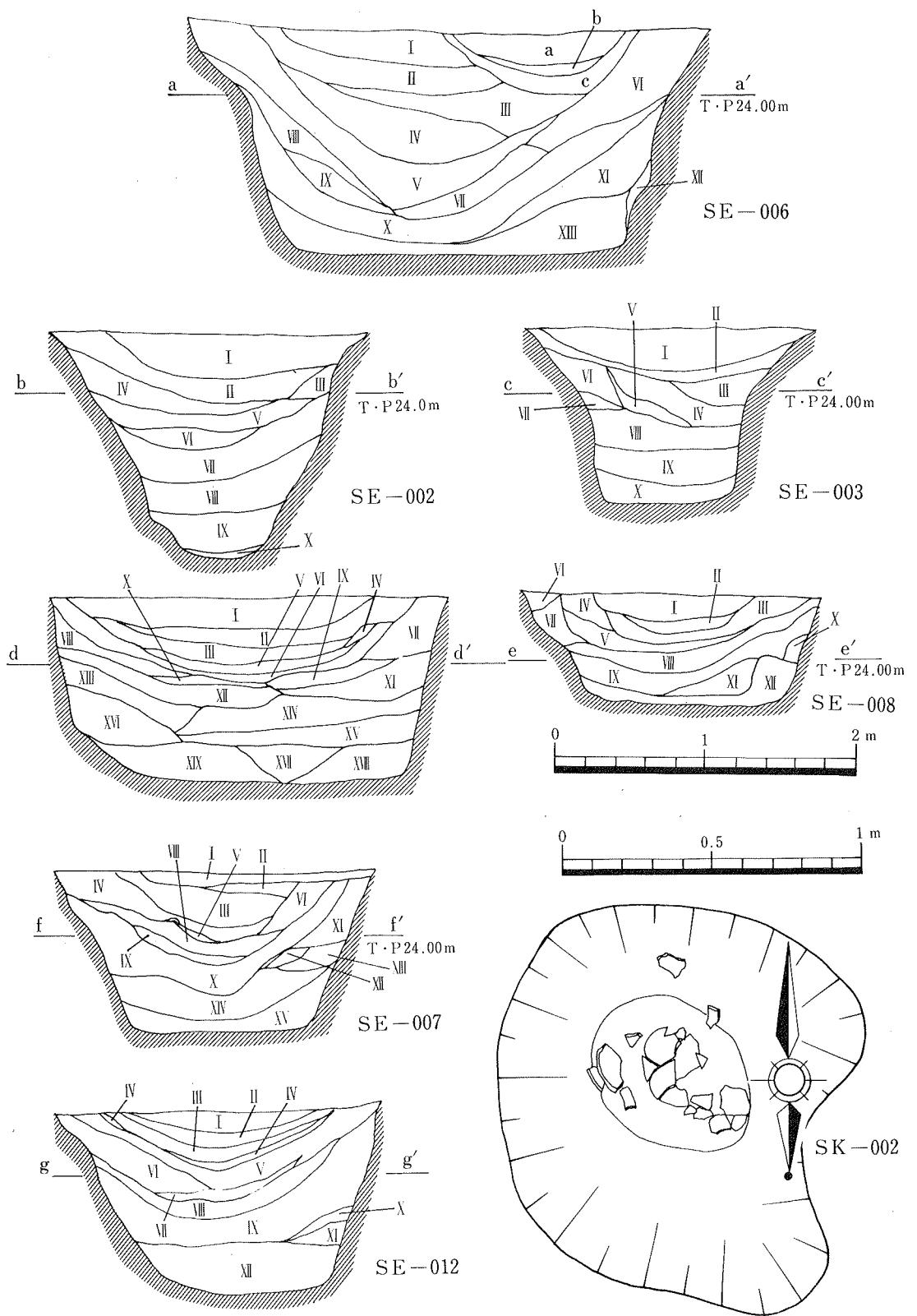
S E-007はD-02地区内に検出した径2.1m×2.3mの円形の掘方である。上面の高さ T・P 24.40m、底の高さ T・P 23.30m、深さ 1.1m、堆積土層は第Ⅰ層黃灰褐色砂質土、第Ⅱ層褐色砂質土、第Ⅲ層黃褐色砂質土、第Ⅳ層黃灰色砂質土、第Ⅴ層青灰色砂層、第Ⅵ層灰褐色砂質土、第Ⅶ層灰色砂層、第Ⅷ層黑色粘土層、第Ⅸ層灰黒色砂質土、第Ⅹ層灰色砂質土、第Ⅺ層黃褐色粘質土、第Ⅻ層灰白色砂層、第Ⅼ層白色砂層、第Ⅽ層青灰色砂質土、第Ⅾ層灰色砂層である。

S E-008はC-03地区とD-03地区にわたり検出した径2.3m×2.2mの円形の掘方である。上面の高さ T・P 24.40m、底の高さ 23.70m、深さ 0.7m、堆積土層は、第Ⅰ層黃褐色砂質土、第Ⅱ層青灰色砂質土、第Ⅲ層黑色粘土層、第Ⅳ層褐色砂質土、第Ⅴ層褐色砂層、第Ⅵ層淡褐色砂層、第Ⅶ層黃褐色砂質土、第Ⅷ層青灰色砂層、第Ⅸ層灰色砂層、第Ⅹ層黃灰褐色砂質土、第Ⅺ層灰黒色砂質土、第Ⅻ層黃褐色砂礫層である。第Ⅳ層内から瓦・瓦器椀・羽釜・円筒埴輪片も出土している。

S E-009はC-02地区内に検出した径2.1m×2.8mの円形の掘方である。上面の高さ T・P 24.30m、底の高さ T・P 23.30m、深さ 1.0mである。

S E-010はE-03地区内に検出した径1.4m×1.6mの円形の掘方である。上面の高さ T・P 24.60m、底の高さ T・P 23.30m、深さ 1.3mである。

S E-011はC-03地区内に検出した径2.5m×2.2mの円形の掘方である。上面の高さ



第5図 井戸断面及び土壤内土器出土平面実測図

T・P 24.10mである。

S E-012はC-01地区内に検出した径2.4mの円形の掘方と推定される。上面の高さT・P24.40m、底の高さT・P23.30m、深さ1.1m堆積土層は、第Ⅰ層黄褐色砂質土、第Ⅱ層灰黃褐色砂質土、第Ⅲ層灰色砂質土、第Ⅳ層黒色粘土層、第Ⅴ層青灰色砂層、第Ⅵ層淡褐色砂層、第Ⅶ層黒色粘質土、第Ⅷ層青灰色粘質土、第Ⅸ層灰青色粘質土、第Ⅹ層黒色粘土層、第Ⅺ層白色砂層、第Ⅻ層灰色粘土層である。

b. 溝 調査区全域で5条の溝を検出した。このうち主なものはSD-001、002、003である。

SD-001はBラインに沿って検出した。幅1.4m×深さ1mのU字状を呈する。上部には褐色砂質土が、下部には灰色砂質土が堆積している。なお溝底のレベルは南から北に下っていることから北向き流路である。溝の南端はややカーブを描くことから西に折れるが、北端については調査範囲外へのびていく。上部からの出土遺物としては、土師質小皿・瓦器椀・瓦・砥石・羽釜・下部から円筒埴輪・サヌカイト片・瓦器椀・土師質小皿がそれぞれ出土する。

SD-002はB-03地区内に検出したSE-001から続く溝であり、幅1.0m、深さ13cmのU字状を呈する。溝内堆積土層である褐色砂質土内から熙寧元寶（1068～1077年北宋）の銭・土師質小皿・瓦器椀・瓦質土器・砥石が出土している。

SD-003はB-02地区内に検出したSE-002から北へ続く溝であり、幅0.5m、深さ10cmのU字状を呈する。溝内堆積土層である褐色砂質土内から土師質小皿・瓦質土器が出土している。

c. 土壙 調査区全域で3基の土壙を検出した。主なものはSK-002である。

SK-002はE-02地区内に検出したもので、1.2m×1.3mの不整円形の土壙で、深さ20cmである。土壙内地山直上において土師器甕3点が埋められていた。この土壙は井戸及び溝・Pit等の時期とは全く違う古墳時代のものである。

d. 掘立柱建物跡 調査区の西半面に集中して検出した柱穴（Pit）は特に井戸の周辺に多く認められ、これらのPitの大半は井戸を覆う建物と考えられる。調査区南側B-03、C-03地区に検出した柱穴は掘立柱建物であり、又4ヶ所のPit内に柱根が残り、10ヶ所のPitには根石が置かれた状態で発見した。

IV 出土遺物

今回の調査地区は集落の中心とする集合井戸を発掘している。井戸内及びそれに付随するPit・溝内からの土器だけで遺跡の概要を報告することは困難であり、井戸を取り囲む集落跡の昭和51年の第1次から第3次の出土遺物をあわせてここに一部報告しておきたい。

1. 第7次調査地区出土遺物

第7次調査地区からの出土遺物は土師質皿・瓦器椀・瓦質の羽釜・須恵質の練鉢・砥石・甕・円筒埴輪等が主としてSD-001・002・003・SK-002より出土している。

(1) 土 器 類

土師質皿

出土遺物の中で土師質の皿が比較的多く出土している。皿は中皿と小皿の2種に分かれ、中皿は口径11cm内外で底部の形が平底をもつもので雑な整形の為に歪つなものばかりである。小皿は口径7cm内外のもので中皿同様雑な整形の為に歪ったものが多い。胎土は精良である。

(2) 瓦 器 楓

いずれも小形であること、高台が退化する前段階のものから完全に退化しているものが出土している。口縁端部は外反し、外面に約1cmの幅でナデ調整。高台は剥落しているが粘土を指先で塗りつけたもので高台としての機能を果たさないものである。内面は雑なナデ調整の上に11~12条の暗文を施し器壁は非常にざらついている。

(3) 瓦質の羽釜

鍔付のもので暗灰色を呈し瓦質土器の系統に入るものである。外面全体にススの付着痕が認められ、内面は刷毛による調整痕をよく残している。口縁端部は平面をもち、つばは短く水平に付いている。胎土は良質で焼成は硬い。

(4) 須恵質の練鉢

小片ばかりである。須恵質で条溝のみられないものが主体で口縁部に自然釉がかぶるものもある。片口の鉢で外反ぎみの端部で口縁部が肥厚する。内・外面ともにナデ調整を施している。

(5) 砥 石

調査区から3点出土している。石材は砂粒の砂岩の中砥2点と粘板岩の仕上砥1点である。中砥の2点のうち1点は大形のもので両面とも砥石として使用されたものである。もう1点の中砥は小形であるが四面とも砥石として使用している。又、仕上砥は両面のみの使用。

(6) 甕

SK-002内から出土した甕は3点、口縁部は「く」の字形に外反して口縁端部にいたる。胴部の張らない球形のものと、胴部の張る球形のものの2種類が出土している。最大径は

ほぼ中位にある。外面全体に刷毛目が残り、内面は指先による窪みや粘土紐の接合痕が残る。丸底で外面に乱方向の刷毛を施し、1点は底部に他の1点は胴部に円孔がある。

2. 第1次調査地区出土遺物（第6図～第9図）

第1次調査地区からの出土遺物は土師質の皿、小皿、瓦器椀、瓦質の羽釜、須恵質の鉢壺、陶磁器等の土器類、石鍋、砥石、石鎌等の石製品類、草履状木製品、曲物底板、蓆編具、ヘラ、椀、下駄の歯等の木製品類、種子等の自然遺物類があり、主に旧河川の下層より出土している。

(1) 土 器 類

土師質皿

出土遺物の中で最も量的に多い土師質の皿は底部の形が3種類に分かれる。尖がり気味のもの（1～4）、平底のもの（5～13）、波をうつたもの（14～25）の3種類である。しかし、その境は“歪つである”という共通性のもとで漸次的なものであり、体部、口縁部の特徴と考えあわせると、分類の基準とまではいかない。

この土師質皿は瓦器椀とのセットで中世の日常雑器としてとらえられるが、第1次の調査によって、明らかに燈明皿として使用されたと思われるものが1点出土している（7）。

多量の土師質皿のうち完形品もしくはほぼ完形品25点のみを掲載する。

土師質小皿

口径8cm内外の小皿で、雑な整形の為に歪つなものばかりであるが、胎土は精良である。完形品のみ11点を掲載する。

瓦 器 椭

4点のほぼ完形品と多量の小片を出土したが、いずれも小型であること、高台が退化していること（中には高台の消滅したものもある。）、全体に雑な調整である事など同形態を示すのでほぼ完形の4点についてのみ掲載する。

羽 釜

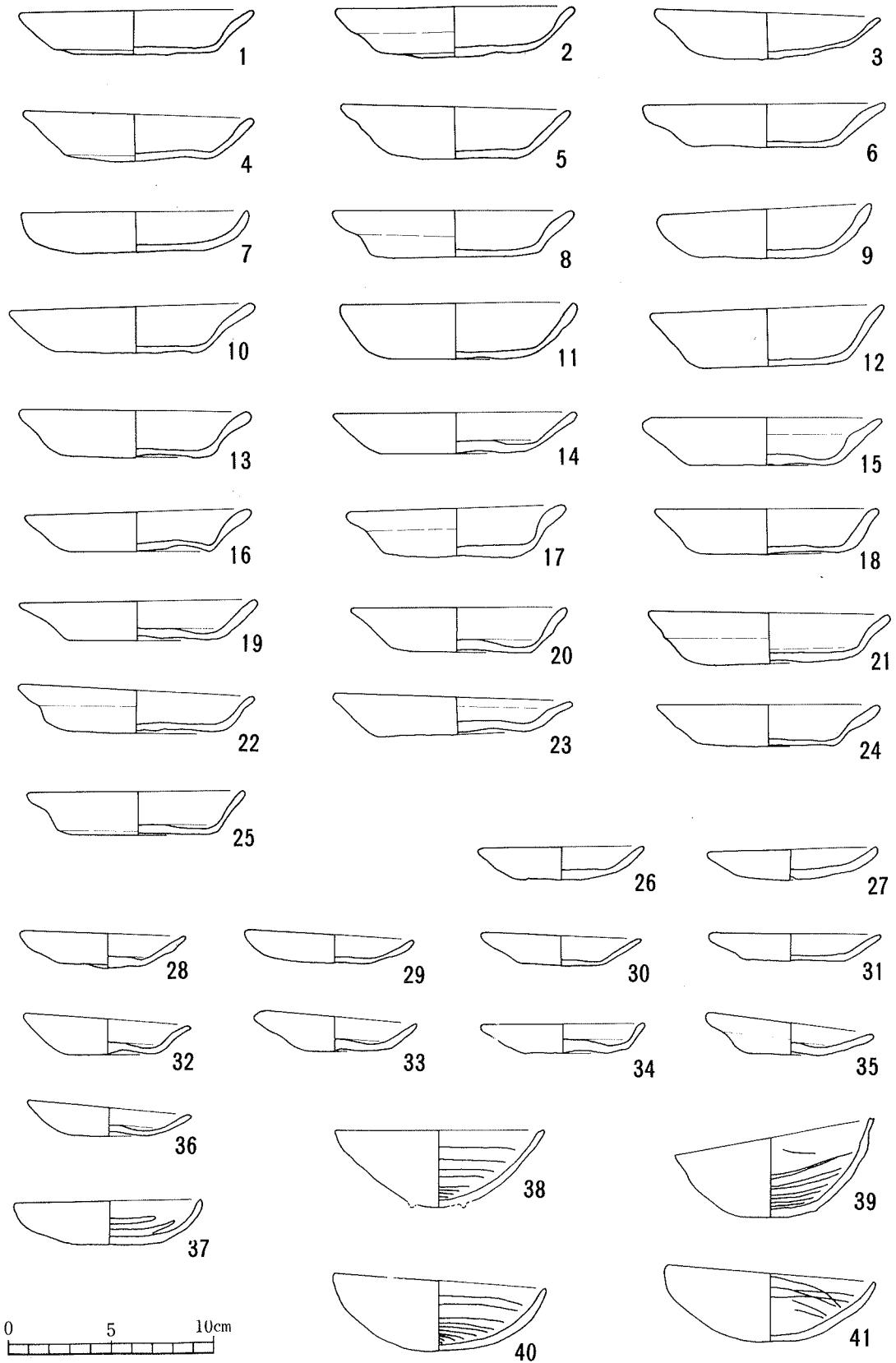
鍔付のもの2点が出土した。暗灰色を呈し瓦質土器の系統に入るものである。いずれもススの付着痕が認められる。内面は刷毛による調整痕をよく残している。

陶 磁 器

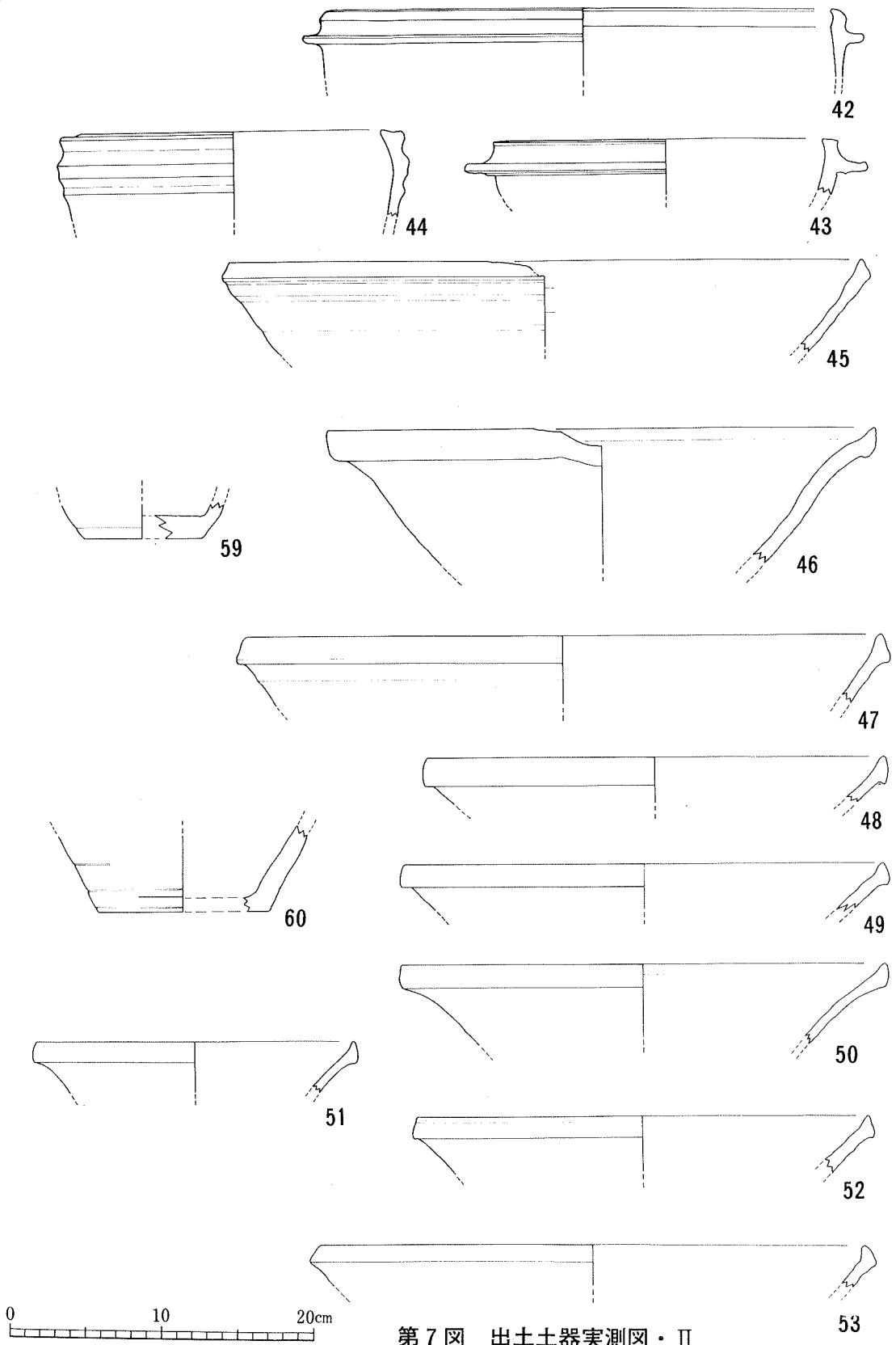
国産の陶磁器類はほぼ全域から出土しているが、特に旧河川から多量に出土している。器種別にみると鉢、壺、おろし皿、椀の日常雑器類が主なものである。

鉢、壺は須恵質であるのに比べおろし皿、椀は瀬戸焼である。

鉢は小片ばかりであるが、須恵質で条溝のみられないものが主体となっており、口縁部のみ自然釉がかかり、一点だけ片口がついている。



第6図 出土土器実測図・I



第7図 出土土器実測図・II

皿は淡緑色の釉が内面にかかり、底に格子目状の条溝が刻まれたおろし皿である。底部は糸切り痕が残る。

中国系磁器

磁器類について、国産と中国系のものを比較すれば、本遺跡においては後者の出土量は圧倒的に少ない。

第1次調査地区において白磁片が2点出土している。(65・66)

(2) 土 製 品 類

土製円板

土器片を加工して円板状にしたもので用途はあきらかでないが、遊戯具と考えることもできる。直径2.5cm、厚さ0.8cmの小さいもので土師質土器片の周縁を打ち欠いて磨いたもの(69)である。

(3) 石 製 品 類

旧河川から石鍋、砥石、石鎌など10点余り出土した。

石 鍋

口縁部及び石鍋二次加工品2点出土している。いずれも滑石製で色調は灰色を帶びている。(70)は口縁部直下に鎧状の突帯を創出させており、口縁部から鎧状突帯にかけて火気のため煤が付着している。(71)は滑石製の石鍋の鎧部周辺を方形に面取りを行なっており、上方中央には両面から穿孔した穴がある。このような穿孔の石製品は、福山市草戸千軒町遺跡、福岡市多々良遺跡においても報告されている。

砥 石

6点出土している。石材は石英粗面岩の中砥で四面が使用されているもの(72)、砂粒の砂岩で四面が使用されている仕上砥のもの(73)、粘板岩の仕上砥(74・75・76・77)などがある。

石 鎌

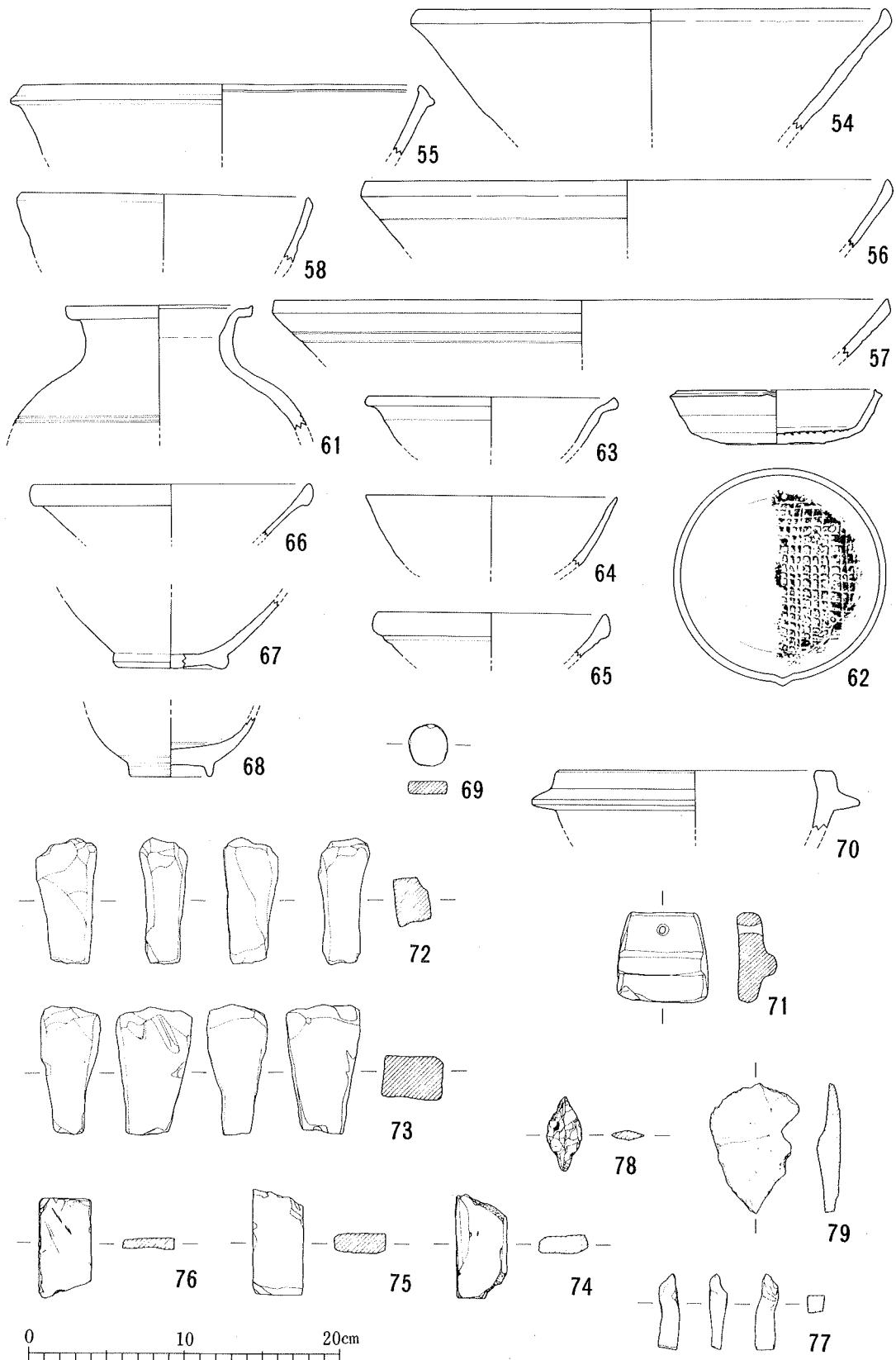
中世遺構面で1点だけ出土した。この石鎌に比定される土器は今のところ発見されておらない。しかしこの付近に今後発見される可能性はある。

(4) 木 製 品

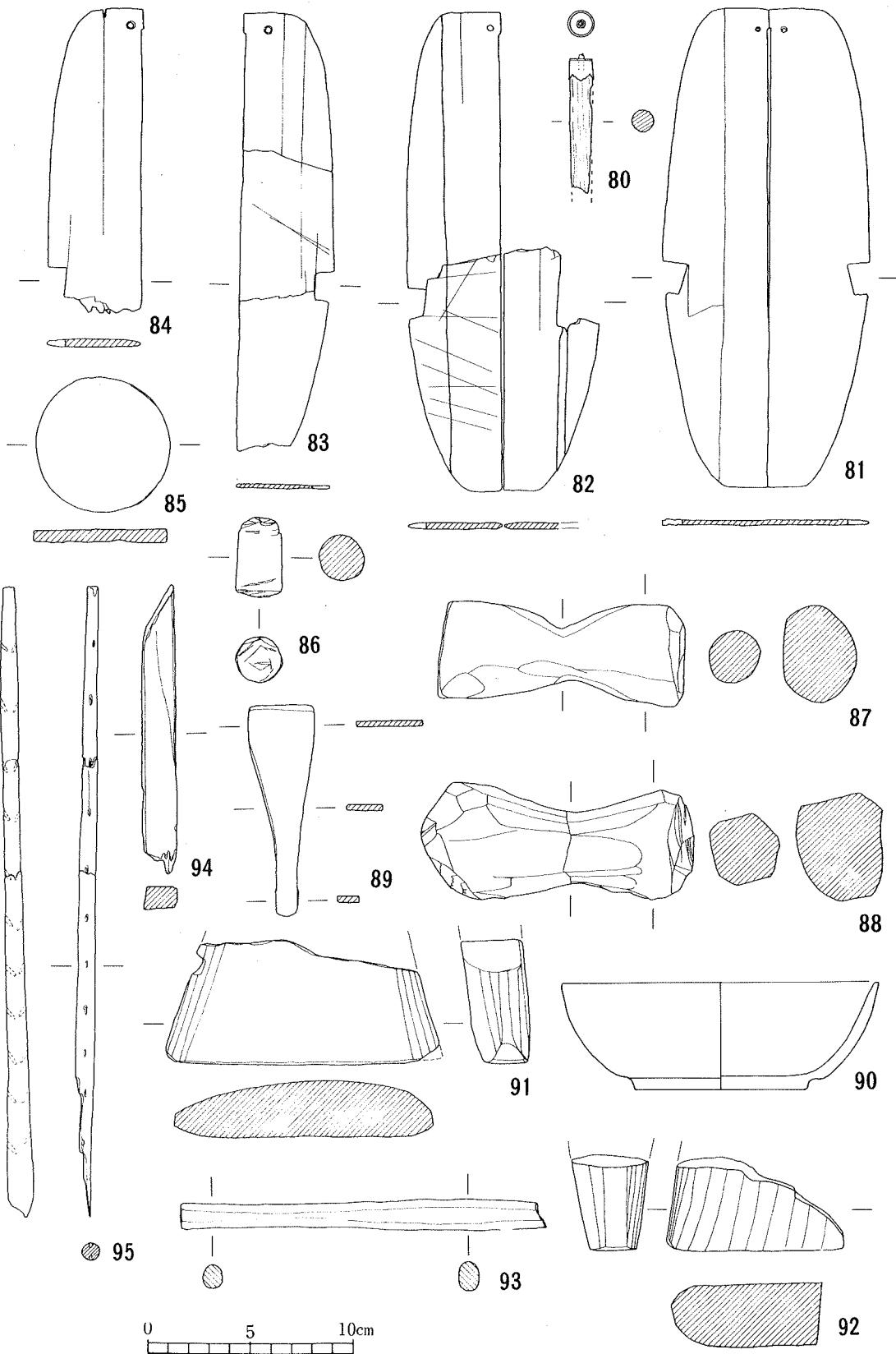
旧河川を中心に草履状木製品や曲物底板、蓆編具、漆器椀、墨書き札、その他加工木製品が多数出土した。

草履状木製品

薄い板の木製品で左右対称の半截品2枚で1個体となる。形状が草履に似ているので草履状木製品と仮称されているが用途は不明である。弧状外縁に中心よりややすれて1cm×1.5



第8図 出土土器Ⅲ・石製品実測図



第9図 出土木製品実測図

cmのコ字形切り込みを施し、一方の短辺に小孔を穿つ。他の出土例は広島県福山市草戸千軒町遺跡、福岡県御笠川南条坊遺跡、広島県尾道市街地下遺跡と極めて少ない。草戸千軒町遺跡においては、破片を含めると 100点を越す出土を見、形状は 7 タイプ、大きさは長さ 23.0 ~ 25.0 cm、巾 8.2 cm ~ 11.0 cm の大形品と、長さ 17.4 cm ~ 19.8 cm、巾 7.5 cm ~ 8.6 cm の小形品の 2 種類が出土し、表裏面に藁状纖維が付着残存し、特に編んだかの様な経緯の纖維方向が認められたものや、後端部にすりへった痕が認められるものがある。福岡県御笠川南条坊遺跡では、形状は 2 タイプ、大きさは長さ 22.4 cm ~ 23.5 cm、巾 9.3 cm ~ 10.0 cm の大形品と長さ 15.0 ~ 17.2 cm、巾 6.4 cm ~ 8.9 cm の小形品の 2 種類が出土し、双孔間にひもづれ状の痕跡の認められるものがある。当遺跡出土のものは形状は 1 タイプ、大きさも 1 種類で上記遺跡出土の大形品とほぼ同じ数値を計り、草履としての使用を推定させる点は認められない。

曲物底板

6.5 cm と小形のもので、片面と縁辺を丁寧に加工しており、柄杓の底板と考えられる。

(85) 又、(93) は柄杓の柄と考えられる。

玉

やや長円形を呈するものであり、両端を鋭いナイフで削られたもの (86) である。

蓆編具

木製錘として編具に使用されたもので、本遺跡から 2 点出土している。丸木に紐掛けの削込みを入れたのみの簡単なもの (87) と全体を丁寧に削込みを入れたもの (88) が出土した。いずれも同型で渡辺誠氏の分類による A c または A d 類に含まれるものである。

ヘラ状木製品

板をノミ状に削ったもの (89) と板を刃状に削ったもの (94) の 2 種がある。ノミ状に削ったものは薄く削り出しており、これに比べ刃状のものは厚いながら刃部を削り出している。いずれも工具と考えられる。

漆器 梗

しっかりした平底を有する梗である (90)。全体的に均整がとれ、内面とも黒漆塗りで残存状態も良好な優品である。

下駄

連歯下駄の歯部 (91), (92) のみ 2 点出土している。

呪符

「 鬼急刻」と木札に墨書きされており、怨靈を退散せしめるための呪符であろう。鎌倉時代以降このように呪符を民間信仰などに広くみられ、裏付け資料として意義深いものである。

穴あき棒状木製品

長さ33.3cmの棒に0.1~0.2cmの穴が両面からあけられており、何らかのものをこの小穴にさし込まれたと考えられるが現段階では明らかでない(95)。

(5) 金属製品類

銅製鋳造品、1点出土した。

銅力 ブセ付木製品

直径約1cmの木の一端に銅製鋳造品をはめこまれている。用途は不明である(80)。

3. 第2次調査地区出土遺物(第10図)

第2次調査地区からの出土遺物は、土師質の皿、小皿、瓦器椀、瓦質の羽釜、香炉、須恵質の鉢、陶磁器等の中世の遺物と、土師器甕、須恵器高壺が出土している。この地区は遺物包含層が後世において削り取られている為に遺物は井戸、掘立柱建物跡、溝状遺構等から出土したものである。

(1) 土 器 類

土師質皿

出土遺物の中で実測可能な土師質の皿を5点記載した。底部の形が3種類に分かれる。平底のもの(96)、尖がり気味のもの(97)・(100)、波をうつたもの(98)・(99)の3種類である。口縁部は丸くとじ時計回りに1回転ナデ調整を行う共通性がある。

瓦 器 椗

実測可能な瓦器椀3点掲載した。いずれも小型で高台がハリ付けて消滅する寸前の終末期の瓦器椀である(101)・(102)・(103)。全体に雑な調整である事など第1次調査地区出土の瓦器椀と同形態を示すものである。

鉢

1号石組井戸から小片を含め6点出土している。すべてが須恵質で条溝がみられなく、口径復原可能な2点のみ掲載した。口縁部に自然釉がかかり、片口を呈する(109)・(110)。

土師器甕

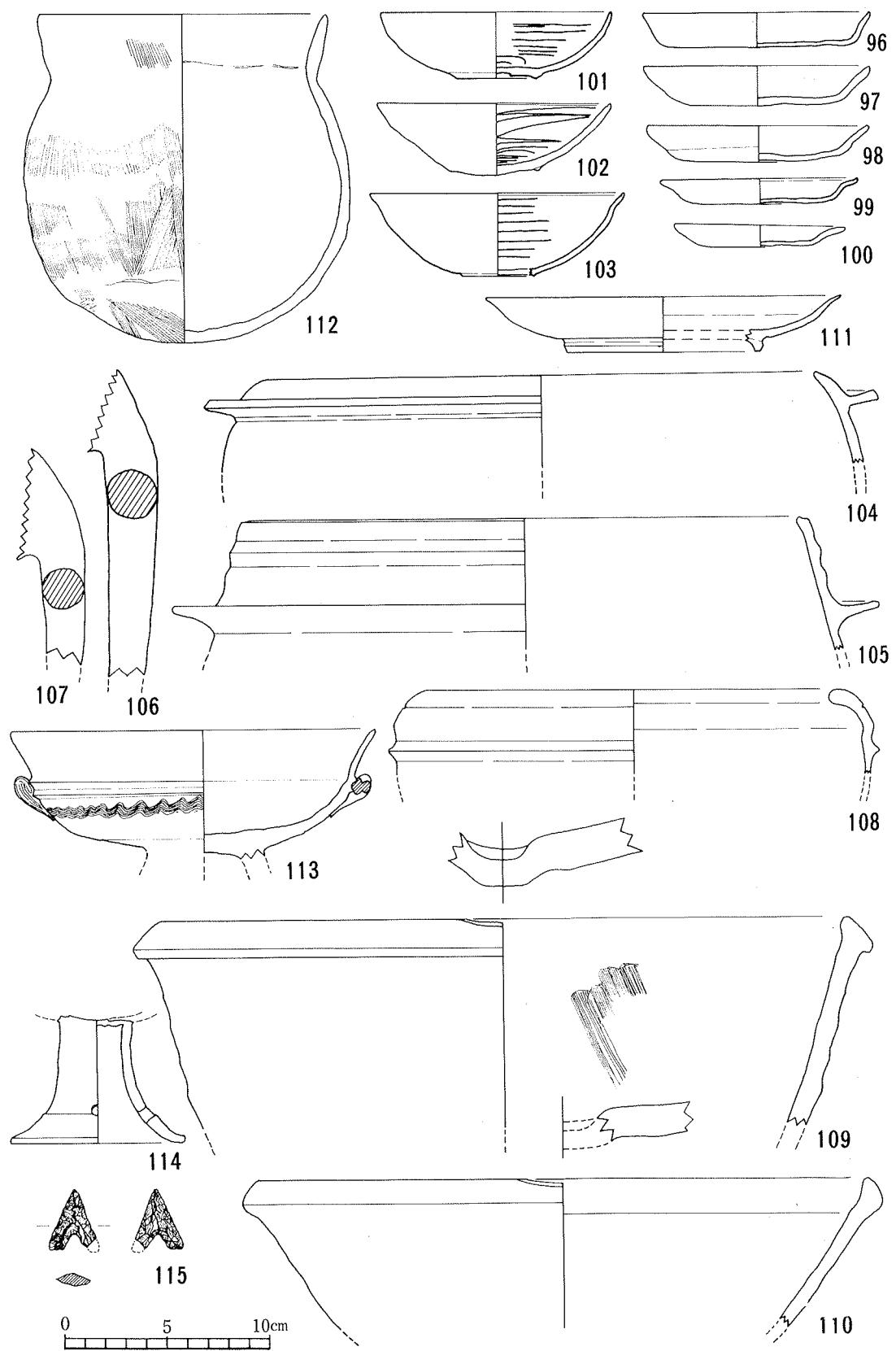
J-4 Pit No.42から土師器甕1点だけ出土した。

口縁部及び胴部から底部にかけての刷毛目調整が施されている(112)。

100m東方の岡山南遺跡出土の甕と同型である。

須 恵 器

須恵器には無蓋高杯部と高杯脚部が遺構上面の中に混入しているものである(113)・(114)。



第10図 出土土器実測図・IV

4. 第3次調査地区出土遺物(第11図)

第3次調査地区からの出土遺物は、土師質の皿・小皿・瓦器椀・瓦質の羽釜・須恵質の鉢等の土器類と硯・砥石等の石製品がある。

(1) 土 器 類

土師質皿

出土遺物の中で土師質の皿が量的に少ない。皿の底部の形が波をうつもの(116)・(117)、平底のもの(118)に分けることができる。口縁部は丸くとじ時計回りに1回転ナデ調整を行なう共通性がある。

土師質小皿

口径8cm内外の小皿で、雑な整形の為に歪つなものばかりであるが、胎土は精良である完形品および実測図可能な9点を掲載する(119)～(127)。

瓦 器 椽

いずれも小形であり高台が退化していること(中には高台が消滅したものもある)全体に雑な調整である。

瓦器椀については、第1次～第3次調査地区で13点の実測図を掲載する。

北河内における瓦器椀の出土は各遺跡から膨大な量の発見が知られているが、終末期の瓦器椀については調査例が少なく資料が稀少で不明であった。しかし、第1次調査地区旧河川、第2次調査地区・第3次調査地区的各遺構内からの層位的に把握できる一括資料であり、北河内の終末期の瓦器椀研究に重要な資料である。

鉢

須恵質の鉢1点出土しており条溝はみられなく、口縁部外面に自然釉がかかっている。

羽 釜

鍔付のもの3点が出土した。暗灰色を呈し瓦質土器の系統に入るものである。いずれもスヌの付着痕が認められる。内面は刷毛による調整痕をよく残している。

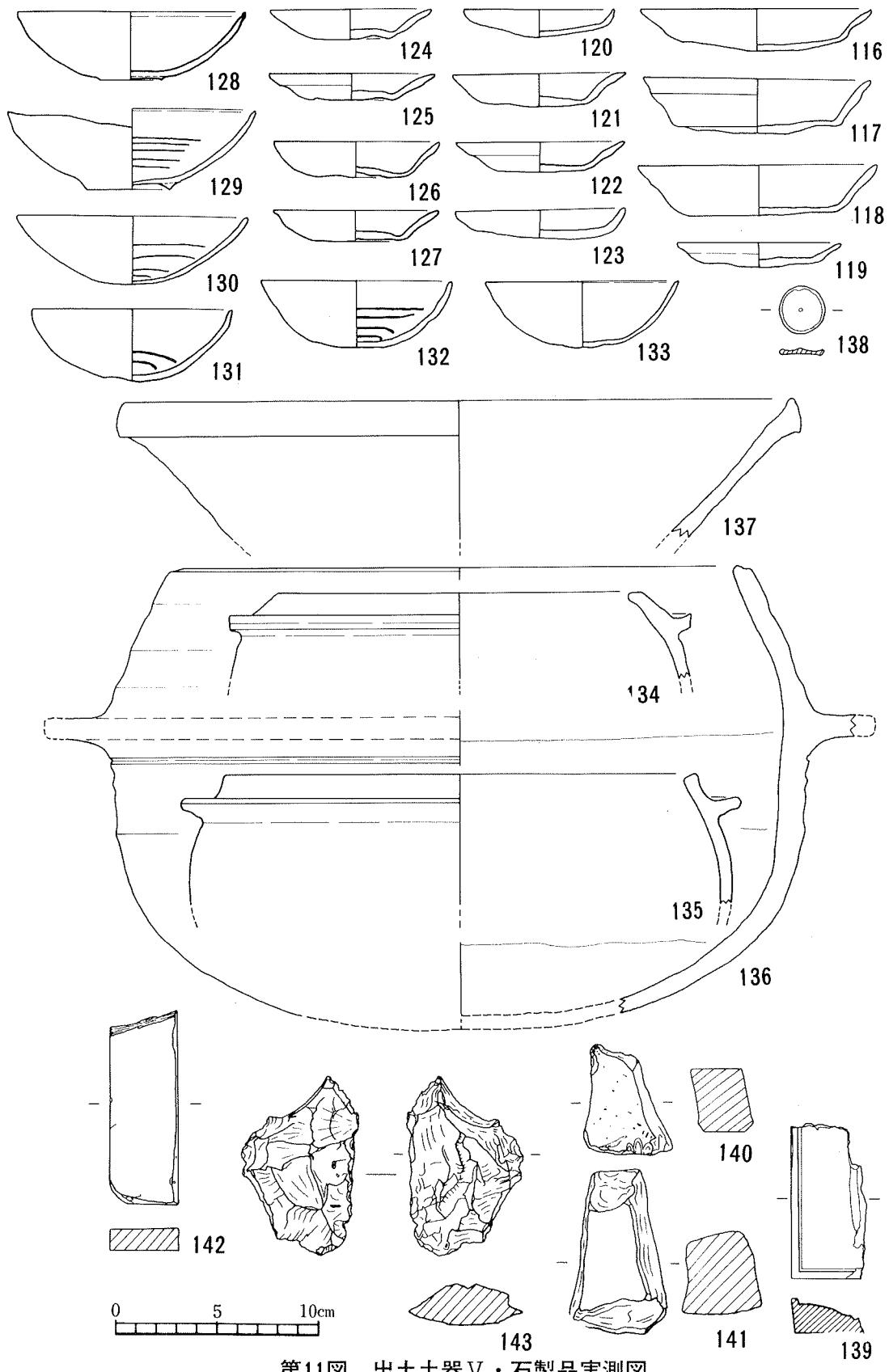
(2) 石 製 品

硯

D-14から1点出土している。粘板岩製の硯と思われる。陸部が一部剝離しているが、全体の形状をうかがうことができる。

砥 石

第3次調査地区から3点出土している。石材は砂粒の砂岩の荒砥のもの(140)、中砥のもの(141)、粘板岩の仕上砥(142)などがある。



第11図 出土土器V・石製品実測図

V まとめ

今回の調査で発見された遺構は、室町時代の井戸12基・溝5本・掘立柱建物跡と古墳時代の土壙3基が確認され、各遺構内から時代決定を行う土器・石製品が出土した。

とりわけ、今回の調査で発見された12基の井戸が調査面積約400m²の中に1例を除き切合いをもたず検出されている。忍ヶ丘駅前遺跡のこれまでの6次にわたる調査では各調査区で1~2基の井戸であるのに対し、今回の井戸が集中して検出されたことは、この場所が井戸設定にかかる良好な水涌き場所であったと考えられる。

SE-001の井戸は石組の施設をもつものであり、井戸の水深が約50cm位まで毎日涌き出ており、この12基の井戸内において最後まで使用されていたものである。

又、その他の井戸は全く水が涌き出ておらず検出時には素掘りの状態にあるが、SE-007・SE-008・SE-009・SE-012の各井戸内から1~2個の花崗岩の石が出土している。このことは、従来井戸として使用していた時においては、石組の施設をもつ井戸であった可能性が出ており、井戸としての機能がはたせなくなった際に井戸施設であった石組を除去し新たに設定した井戸に使用したと考える。

すなわち、第2次調査区の石組井戸、第3次調査区の石組井戸、第4次調査区の石組十曲物井戸、第5次調査区の5段積の曲物井戸は調査当時水が涌き出ており、最後まで使用されていたものであり、この忍ヶ岡丘陵の地山である黄褐色砂質土だけでは風雨などによって井戸肩部は崩れることは確実であり井筒等の施設をもたない素掘井戸であったとは考えられない。従来から井戸を覆う建物があったものと考えていたが、今までの井戸発掘例では、井戸上部削平のためか、柱穴（Pit）が井戸を取り囲むように出て来ておらず、今回のように確実に井戸を取り囲む柱穴が検出したことによって井戸の覆う建物であった。

今回の調査区の井戸だけで東高野街道沿いの中世村落を考えるのに非常に困難であるが、過去の6回にわたる調査と今回の調査後の2次の調査をあわせて9次にわたる調査全体から以下少し補足しておきたい。

第1に忍ヶ丘駅前遺跡の中世村落として開始された時期は、第4次調査の旧坪井踏切横に検出した石組井戸及び土器の口縁を再利用した井戸が検出している。この石組井戸内から曲物底板2枚と瓦器碗が出土しており、又、土器口縁部を再利用した常滑の大甕は、底部を打ち割り肩部から口縁部を井戸の井筒としているもので時期的には平安時代末から、鎌倉時代初め頃に位置づけられる。又、各遺構内から出土した土器の中で特に土器編年の出来る黒色土器及び瓦器碗からみて、12世紀中頃から13世紀に忍ヶ丘駅前遺跡の範囲内の北側に集中しており、貼り付け高台を全くつけない終末期の瓦器碗が忍ヶ丘駅の東側に集中して出ており、14世紀代とみることができる。

第2に、四條畷市周辺及び北河内地方や八幡市の木津川等から滑石製石鍋が11点現在までに知られているが、この内四條畷市から2遺跡4点が出土している。

滑石製石鍋は古代末から中世にかけて西日本の各遺跡から一般に石鍋と呼ばれる、滑石材質で作られたものが出土している。このいわゆる石鍋は、九州及びその周辺地域に広く用いられる日常煮沸具である。四條畷市及びその周辺から出土する石鍋は、四條畷市中野遺跡で1点・忍ヶ丘駅前遺跡で3点・枚方市藤田山遺跡で2点・楠葉東遺跡で2点・京都府八幡市木津川底で3点が出土又は、表面採集している。この中で石鍋に煤が付着している例としては、忍ヶ丘駅前遺跡・藤田山遺跡だけであり、北河内以外の西日本についてみてみると大阪府高石市伽羅橋遺跡・広島県福山市草戸千軒町遺跡・福岡県御笠川南条坊遺跡・大宰府遺跡・長崎県浦田名市出土のものが鏽や底部などの外面に付着している。これららの付着状況からみて長期間煮沸具として使用されたと考えられるが、一方、煮沸具として使用されたと考えられない例として、木津川底から口径24.5cm・器高9.0cmの滑石製で色調は灰色を帶びており、口縁部直下に鏽状の突帯が創出しているが下面をノコギリ状工具で切断したもので底部に円孔があけられている。この他にも佐賀県片山第1号経塚では石鍋を経筒の陶製外筒の蓋に転用している例もあり、この木津川底出土の滑石製石鍋も経筒の陶製外筒に転用された可能性もある。

滑石の材質と原産地について述べると滑石の硬度1~1.5度と低く、手にふれると脂様の感触がある。その軟かいところから加工に容易な点が古くから注意をひき装身具の材料として使用されてきた。原産地は山口県防府市西部・長崎県西彼杵郡雪ノ浦が名高い。又、福岡県飯塚市八木山峰でも出土するというが一般に雪ノ浦産出の石よりも八木山で製作された石鍋は、製品として粗雑であり、製品によって差がある。

四條畷市とその周辺から出土している石鍋は中国山脈に滑石の原産地があることから推して必ずしも北九州産とみる必要はない。

最後に石鍋が文献上に登上するのは、弘長元年（1261）3月17日の仁和寺旧藏の譲り状である。

第3に草戸千軒町遺跡第28・29次発掘調査概要報告書に報告されている草履状木製品（SG 1791）出土ものに鼻緒の残したまま検出し草履状木製品が履物として使用されたことが確実になり、又、鎌倉市でも出土されたものも同様であった。しかし忍ヶ丘駅前遺跡のこれまでの6点を見た限りでは表面にわら状纖維が付着した痕跡は全く認められないが今後の同遺跡発掘において発見されるかもしれない。

第4に忍ヶ丘駅前遺跡から古墳時代中期より後期にかけて数多く出土する埴輪類であるが、第7次調査時にも後期の円筒埴輪片が出土しているが、第8次調査区において中期の衣蓋埴輪・十字飾部が完全な形で出土し、第9次調査においても、人物埴輪の顔部が出土している。

この人物埴輪は従来の出土例にないひさしのない帽子をかぶり帽子の周囲に十字の線刻が入り、後部で結び目のリボンを付している。又、鼻が高く顎が鋭くえぐれて鼻穴があいておらない。この遺跡の隣接地の岡山南遺跡にも中期のS字形を呈する巾3m～4m、深さ1.5mの溝内から高さ42cm、底幅35cm、床面積750cm²の切妻造家形埴輪が出土しており、屋根には5本の堅魚木がのせられていた。又、ヒノ木材で作られた長さ24.4cm、幅9.5cmの下駄が出土している。

VI 掲載遺物観察表

第1次調査地区

土師質皿

番号	法量(cm)	特徴	色調、胎土、焼成	備考
1	口径11.4 器高 2.1	底部は直で尖がりぎみ、体部は外反ぎみな部分と直線的にのびる部分があり、底部と体部の境付近は薄く、体部で肥厚し口縁端部は丸くとじる。外面の体部中位より上はナデ調整。内面は摩耗の為にはっきりしない。	○白黄褐色。 ○良質。 ○良好。	F-10 旧河川 灰黒色粘質土層。
2	口径11.7 器高 2.4	底部は中央部分が外へ肥厚している為に尖がりぎみ。ゆるやかに立ち上がる体部は直線的で、口縁部で肥厚し端部は丸くとじる。外面の体部上位より上はナデ調整。内面は摩耗の為にはっきりしない。	○灰黄褐色。 ○良質。 ○良好。	G-12 黄褐色砂質土層。
3	口径10.9 器高 2.2	凸状の底部で器壁は薄い。底部と体部の境がはっきりせず、体部は直線的ゆるやかに立ち上がるが、口周部は外反ぎみ。外面は体部中位より上をナデ調整。内面は底部を一方向にナデた後、体部を時計回りにナデ調整。	○灰黄褐色。 ○良質。 ○良好。	G-12 旧河川 灰黒色粘質土層。
4	口径11.1 器高 2.3	底部が波打っている為に凸状を呈する。直線的に立ち上がる体部で口縁部は肥厚して端部は丸くとじる。外面の体部中位より上と内面体部にナデ調整。底部外面に粘土くずが付着。	○灰黄褐色。 ○良質。 ○良好。	F-11 旧河川 灰黒色粘質土層。
5	口径11.2 器高 2.5	平底で体部は直線的に立ち上がる。体部の整形が一部分だけ粗雑で段をもつ。口縁端部は丸くとじる部分と尖がりぎみな部分とがある。外面の体部中位より上にナデ調整。	○白黄褐色。 ○良質。 ○良好。	G-12 旧河川 灰黒色粘質土層。
6	口径11.7 器高 2.1	平底で体部は外反ぎみに立ち上がる部分と外反して口縁部で内湾ぎみに立ち上がる部分とがあり、口縁端部は丸くとじる。底部内面を一方向にナデたのち、体部内面と体部上位より上の外側を時計回りにナデ調整。	○赤っぽい白黄褐色。 ○良質。 ○良好。	F-10 旧河川 灰黒色粘質土層。
7	口径11.0 器高 2.0	平底で底部と体部の境が不明瞭。体部はやや内湾ぎみに立ち、口縁端部で丸くとじる。外面体部・内面全体にナデ調整が施されているが、摩耗がひどい。口縁部に2ヶ所加熱の跡が認められる。	○赤っぽい黄褐色。 ○砂粒を多く含む。 ○良好。	G-10 旧河川 灰黒色砂質土層。
8	口径11.8 器高 2.3	平底で体部は外反し口縁端部は丸くとじる。底部に比べて体部・口縁部は肥厚している。外面の体部中位より上にナデ調整、内面は摩耗している。	○赤っぽい黄褐色。 ○砂粒を含む。 ○良好。	F-12 旧河川 灰黒色粘質土層。
9	口径10.4 器高 2.4	平底で底部と体部の境が不明瞭。形が直で体部は外反ぎみな部分、直線部な部分、内湾ぎみな部分とがある。口縁部で肥厚し端部で丸くとじる。外面の体部中位より上と内面体部にナデ調整。	○白黄褐色。 ○良質。 ○良好。	F-10 旧河川 灰黒色粘質土層。
10	口径11.9 器高 2.2	平底で体部は外反する部分と直線的に立ち上がる部分があり、口縁部で肥厚し、端部で丸くとじる。外面の体部上位より上にナデ調整。内面は摩耗している。	○赤っぽい白黄褐色。 ○良質。 ○良好。	G-12 旧河川 灰黒色粘質土層。
11	口径11.5 器高 2.7	平底でゆるやかに立ち上がる体部は直線的、口縁部で肥厚し、端部で丸くとじる。丁寧な整形である。外面の体部中位より上と内面体部に時計回りの丁寧なナデ調整。	○白黄褐色。部分的に赤味をおびる。 ○良質。 ○良好。	G-10 旧河川 灰黒色砂質土層。
12	口径11.4 器高 2.8	平底で体部は直線的で外上方へ開く形態の深い皿。外面の体部中位より上と内面体部にナデ調整。全体に丁寧なつくり。	○赤っぽい白黄褐色。 ○良質。 ○良好。	F-10 旧河川 灰黒色砂質土層。
13	口径11.3 器高 2.3	平底で体部を外反し口縁部で肥厚し端部は丸くとじる。外面の体部中位より上と内面体部にナデ調整。乾燥時に細い板(0.8 mm程度)の土に置かれたらしく、底部に3本の圧痕が認められる。	○白黄褐色。 ○良質。 ○良好。	F-10 旧河川 灰黒色粘質土層。

番号	法量(cm)	特徴	色調、胎土、焼成	備考
14	口径11.8 器高 2.0	浅い皿で底部は直線的でやるく立ち上がり口縁端部で丸くとじる。外面の口縁部と内面に雜なナデ調整。	○灰黄褐色。 ○良質。 ○良好。	F-12 旧河川 灰黒色粘質土層。
15	口径11.6 器高 2.2	波をうった底部と肥厚して外反ぎみの体部との境は器壁が薄く、口縁部も薄くなるが端部は丸くとじる。外面の体部中位より上をナデ調整。内面は摩耗している。	○白黄褐色。 ○良質。 ○良好。	F-11 旧河川 灰黒色粘質土層。
16	口径11.0 器高 1.9	波をうった底部より綻く立ち上がる体部は口縁部で肥厚し端部で丸くとじる。体部と底部の境は器壁が極めて薄い。外面の体部中位より上と内面体部に反時計回りのナデ調整。	○赤っぽい白黄褐色。 ○微量の砂粒を含む。 ○良好。	F-10 旧河川 灰黒色粘質土層。
17	口径10.7 器高 2.4	波をうった底部で、外反する体部は器壁が薄く、口縁部で肥厚し端部は丸くとじる。外面の体部中位より上と内面の体部にナデ調整。乾燥時に細い板(1cm程度)の上に置かれたたらしく2本の压痕が認められる。	○赤っぽい白黄褐色。 ○良質。 ○良好。	F-10 旧河川 灰黒色粘質土層。
18	口径10.8 器高 2.2	波をうった底部で体部は肥厚してやや外反ぎみ。口縁端部は丸くとじる。外面の体部上位から上にナデ調整。内面は摩耗している。	○赤っぽい白黄褐色。 ○良質。 ○良好。	G-10 旧河川 灰褐色砂質土層。
19	口径11.5 器高 1.9	波をうった底部で体部はやや外反ぎみに立ち上がる。内外面ともに摩耗の為調整は不明。	○赤っぽい白黄褐色。 ○良質。 ○軟で火むらあり。	F-10 旧河川 灰黒色砂質土層。
20	口径10.5 器高 2.2	波をうった底部で中央部分が肥厚し体部との境は極めて薄く、体部はやや外反ぎみで口縁部に近いほど肥厚し、端部で丸くとじる。雜な整形で外面の体部中位より上にナデ調整。内面は摩耗している。	○黄褐色。 ○砂粒を多く含む。 ○良好。	G-10 旧河川 灰黒色砂質土層。
21	口径11.7 器高 2.5	ほぼ平底の底部で、体部は外反し口縁端部で丸くとじる。丁寧な整形の後、底部内面を一方向にナデたのち外面の体部中位より上と内面体部をナデ調整。	○赤っぽい白黄褐色。 ○良質。 ○良好。	F-10 旧河川 灰黒色粘質土層。
22	口径11.5 器高 2.1	波をうった歪な底部で体部は外反し、口縁端部は丸くとじる。外面の体部中位より上と内面体部にナデ調整。	○赤っぽい白黄褐色。 ○砂粒を含む。 ○良好。	F-11 旧河川 灰黒色砂質土層。
23	口径11.6 器高 1.8	波をうった底部で体部はほぼ直線的に立ち上がり、口縁端部は丸くとじる。外面の体部中位より上にナデ調整。内面は摩耗している。乾燥時に2本の棒状のものの上に置いたらしく、底部外面に2本の压痕が認められる。	○白黄褐色。 ○良質。 ○良好。	F-12 旧河川 灰黒色粘質土層。
24	口径10.8 器高 2.0	ごくゆるく波をうった底部で体部は外反ぎみで肥厚し、口縁端部で丸くとじる。底部と体部の境の部分は器壁が極めて薄い。外面の体部中位より上にナデ調整。内面は摩耗している。	○灰黄褐色。 ○砂粒を含む。 ○良好。	F-11 旧河川 灰黒色粘質土層。
25	口径10.6 器高 2.1	ゆるく波をうった底部で体部は外反ぎみに立ち上がり、口縁端部で丸くとじる。整形は雑で粘土の雜ぎ目が残る。外面の体部中位より上と内面体部にナデ調整。	○暗灰黄褐色。 ○良質。 ○良好。	F-10 旧河川 灰黒色砂質土層。

土師質小皿

番号	法量(cm)	特徴	色調、胎土、焼成	備考
26	口径 8.1 器高 1.6	尖がりぎみの底部は器壁が厚く、ゆるやかなカーブで立ち、体部は直線的で口縁端部で丸くとじる。外面の体部中位より上面体部に時計回りのナデ調整。	○灰黄褐色。 ○良質。 ○良好。	F-10 旧河川 灰黒色砂質土層。
27	口径 8.3 器高 1.5	尖がった底部で体部との境が不明瞭で、体部は内湾ぎみに立ち上がり口縁端部は丸くとじる。外面の体部と内面全体に時計回りのナデ調整	○赤っぽい白黄褐色。 ○良質。 ○良好。	G-12 旧河川 灰黒色粘質土層。

番号	法量(cm)	特徴	色調、胎土、焼成	備考
28	口径 8.1 器高 1.7	底部中央が外へ肥厚する為に尖がった底部で体部は直線的に立ち上がり、口縁端部で丸くとじる。体部と底部の境は内面を繰り返しナデしている為に窪む。底部を一方向にナデした後、外面の体部中位より上と内面体部にナデ調整。	○赤っぽい白黄褐色。 ○良質。 ○良好。	G-12 旧河川 灰黒色粘質土層。
29	口径 8.3 器高 1.4	やや歪んではいるが平底で体部は内窪みに立ち上がり、口縁端部は丸くとじる。整形が雑で体部の形態は部分的に異なる。外面の体部中位より上と内面体部に反時計回りのナデ調整。	○赤っぽい白黄褐色。 ○良質。 ○良好。	G-10 旧河川 灰黒色粘質土層。
30	口径 7.8 器高 1.5	平底で体部は直線的に立ち上がり、口縁端部は丸くとじる。全体に器壁は薄く整形は丁寧である。外面の体部中位より上と内面全体に反時計回りのナデ調整。	○灰黄褐色。 ○良質。 ○良好。	F-10 旧河川 灰黒色粘質土層。
31	口径 8.4 器高 1.4	平底で体部は直線的でゆるく立ち上がり、口縁端部は丸くとじる。体部内外面に反時計回りのナデ調整。底部外面に粘土くずが付着。	○灰黄褐色。 ○砂粒を含む。 ○良好。	F-10 旧河川 灰黒色粘質土層。
32	口径 8.2 器高 1.8	底部中央が肥厚し、歪な為に波をうった底部で、体部は直線的に立ち上がるがナデ調整の時に外反した部分がある。外面の体部中位より上と内面体部に時計回りのナデ調整。	○白黄褐色。 ○良質。 ○良好。	F-11 旧河川 灰黒色粘質土層。
33	口径 8.0 器高 1.7	底部中央が肥厚し波をうった底部で、体部はゆるく立ちやや内窪みに延びて口縁端部で丸くとじる。外面の体部中位より上と内面のほぼ全体に時計回りのナデ調整。	○灰黄褐色。 ○微量の砂粒を含む。 ○良好。	F-11 旧河川 灰黒色粘質土層。
34	口径 8.0 器高 1.5	底部中央が肥厚した波をうった底部で、体部は比較的鋭く立ち上がる。整形は雑で、外面の体部中位より上にナデ調整。内面は摩耗している。	○灰色褐色。 ○砂粒を含む。 ○良好	F-10 旧河川 灰黒色砂質土層。
35	口径 8.2 器高 1.8	波をうった底部で、整形が雑のとくり返しのナデの為に体部は外反する部分、直線的にのびる部分がある。外面の体部中位より上と内面全体に反時計回りのナデ調整。	○白黄褐色。 ○良質。 ○良好。	F-10 旧河川 灰黒色粘質土層。
36	口径 8.0 器高 1.6	波をうった底部で体部は内窪みにゆるく立ち上がり、口縁端部は丸くとじる。器壁は様に薄く、丁寧な整形で、外面の体部上位より上と内面のほぼ全体にナデ調整。	○灰黄褐色。 ○良質。 ○良好。	F-10 旧河川 灰黒色粘質土層。

瓦器Ⅲ

番号	法量(cm)	特徴	色調、胎土、焼成	備考
37	口径 9.2 器高 2.1	底部と体部の境が不明瞭な皿で、体部は内窪みに立ちあがり、口縁端部は丸くとじる。体部内外面にナデ調整が施され、内面にジグザグの暗文が施されているが摩耗がひどく明瞭ではない。	○暗灰色。 ○良質。 ○硬。	G-10 灰褐色砂質土層。

瓦器椀

番号	法量(cm)	特徴	色調、胎土、焼成	備考
38	口径10.0 器高 3.8	口縁端部は外反し、内面に1条の沈線。外面に約1cmの幅でナデ調整。高台は剥落しているが粘土を指先で塗りつけた高台としての機能を果さないものが推定される。内面は雑なナデ調整の上に8~12条の暗文。器壁は非常にざらつとしている。	○炭素の吸着が一様でなくいぶし銀色、灰色、黒色と部分的に異なる。 ○良質。	F-10 灰黑色粘質土層。
39	口径 9.8 器高 3.9	口縁端部に1条の沈線、外面に1.0~1.2 cmの幅でナデ調整。高台は粘土を指先で塗りつけた程度の退化したもので、しかも1周してなく機能を果していない。暗文は10~12条。	○内面の口縁部1ヶ所と中位外面1ヶ所を除いて炭素が吸着しいぶし銀色。 ○良質。硬。	F-10 灰黑色粘質土層。
40	口径10.2 器高 3.4	口縁端部は丸くとじ、外面に約1cmの幅でナデ調整。高台は付かず丸底。内面に反時計回りの渦巻き状の暗文。他の瓦器椀に比べて丁寧な調整で内面はよくナデられている。	○内面は炭素の吸着が密でいぶし銀色、外面は黒色 ○良質 ○硬。	F-10 灰色粘質土層。

番号	法量(cm)	特徴	色調、胎土、焼成	備考
41	口径 9.9 器高 3.3	口縁端部は丸くとじ外面は1cmの幅でナデ調整。高台は付かず丸底。内外面共に雑な調整で、内面の数条の暗文はほとんど消えている。	○内外面共に黒色。 ○良質。 ○硬。	G-12 灰黑色粘質土層。

羽釜

番号	法量(cm)	特徴	色調、胎土、焼成	備考
42	口径 32.6 つば径36.6 現存高4.5	丸みを持つ口縁部の内面は繰り返しのナデの為に窪んでいる。つばは短く水平に付く。体部内面に刷毛目が認められる。	○灰色。つばの下にスス付着。 ○砂粒を含み荒い。 ○硬。	F-11 灰褐色砂質土層。
43	口径20.6 つば径26.2 現存高3.6	わずかに外傾する平面をもつ口縁部。水平なつばを付けた後に体部をへら削りしている為つばの貼り付け部分に棱をもつ。	○内面は黒色、外面は暗灰色。 ○良質。 ○硬。	G-12 灰褐色砂質土層。

香炉

番号	法量(cm)	特徴	色調、胎土、焼成	備考
44	口径19.6 現存高 5.7	内湾する口縁部で端部はナデの為に窪む。外面に断面が台形と三角形の凸部がナデにより浮き出されている。内面は丁寧なナデ調整。	○灰黒色。 ○良質で石英の粒が目立つ。 ○硬。	F-12 黄褐色砂質土層。

鉢

番号	法量(cm)	特徴	色調、胎土、焼成	備考
45	口径42.5 現存高 6.1	片口の鉢で直線的な体部が口縁部付近で肥厚し、端部は外傾する。整形は雑で粘土紐の接合痕を外面に残す。口縁部内外面にナデ調整。体部外面に雑なナデ調整。	○灰色で口縁部外面に灰釉。 ○砂混りのやや荒い胎土。 ○硬。	F-12 旧河川 灰黑色粘質土層。
46	口径36.0 現存高 8.0	片口の鉢で、ゆるやかなカーブをもった体部より外反した口縁部は上面に尖りぎみに肥厚する。体部の整形に比べて口縁部の整形が雑である。口縁部の内面は繰り返しのナデの為に窪んでいる。	○紫灰色。口縁部外面に灰釉。 ○砂粒を含むが良質。 ○硬。	F-10 旧河川 灰黑色砂質土層。
47	口径41.6 現存高 4.5	外に肥厚し、外に傾斜した口縁部で、内面は繰り返しのナデの為に窪んでいる。体部外面にもナデ調整。	○暗灰色。口縁部外面に灰釉。 ○良質。 ○硬。	G-12 灰褐色砂質土層。
48	口径30.0 現存高 3.0	内湾ぎみの口縁部で下へ肥厚して段を形成している。	○灰色。口縁部外面に灰釉 ○良質。 ○硬。	G-11 黄褐色砂質土層。
49	口径31.2 現存高 3.0	外に肥厚して段を形成する口縁部で、内面は繰り返しのナデ調整の為に窪んでいる。外面にナデ調整。	○灰色。口縁部外面に灰釉。 ○砂粒を含むが良質。 ○硬。	F-11 灰褐色砂質土層。
50	口径31.8 現存高 5.3	外反ぎみの体部で、口縁部で肥厚する。口縁部内面は繰り返しのナデ調整の為に窪んでいる。外面全体にナデ調整。	○明灰色。口縁部外面にごく薄い灰釉。 ○良質。 ○硬。	G-11 灰褐色砂質土層。
51	口径20.8 現存高 3.4	小形の鉢で直線的な体部で口縁部は肥厚する。口縁部内面に繰り返しのナデによる窪みがある。外面はナデ調整。	○明灰色。口縁部外面に灰釉。 ○砂粒を含む。(3mm程度) ○硬。	F-10 灰褐色砂質土層。
52	口径29.6 現存高 3.8	外に少し肥厚する口縁部で内面はナデ調整の為に窪む。外面は口縁部・体部共にナデ調整。	○灰色。口縁部外面に灰釉。 ○良質。 ○硬。	G-11 灰褐色砂質土層。

番号	法量(cm)	特徴	色調、胎土、焼成	備考
53	口径35.6 現存高 2.7	外に少し肥厚し上に立つ口縁部。全体にナデによるものではなく、端部をつまみ上げた為のもの。	○灰色。口縁部外面に灰釉。 ○砂粒を含むが良質。 ○硬。	F-12 旧河川 黄褐色砂質土層
54	口径30.2 現存高 7.9	上へ肥厚する口縁部で体部は直線的。体部外面はナデ調整が施されるが粘土紐接合痕が残る。口縁部外面の灰釉は剥落している。	○暗灰色。 ○3mm~5mmの砂粒を少し含むが精良。 ○硬。	F-11 旧河川 灰黑色粘質土層
55	口径25.4 現存高 4.5	口縁部は外に肥厚し、端部は内折する。外傾する部分は繰り返しのナデの為に窪んでいる。体部面にナデ調整。	○暗灰色。口縁部外面に灰釉、しかし半分程は剥落。 ○良質。 ○硬。	F-11 旧河川 灰黑色粘質土層
56	口径33.8 現存高 4.5	器壁の薄い鉢で肥厚しない口縁部は外傾し、端部はやや尖がりぎみである。口縁部内外面と体部外面にナデ調整。	○灰色。口縁部外面に灰釉。 ○良質。 ○やや軟。	E-11 灰褐色砂質土層
57	口径39.6 現存高3.7	肥厚しない口縁部は外傾する面をもつ。内外面ともにナデ調整し、体部外面に2条の沈線を施す。	○明灰色。口縁部外面に薄い灰釉。 ○良質。 ○硬。	E-11 灰褐色砂質土層
58	口径18.5 現存高 4.2	小型の鉢で口縁部は肥厚しない。内面と口縁部外面にナデ調整が施され、その部分に炭素が吸着。	○炭素吸着部分は灰黒色、他は黄色っぽい灰色。 ○砂混り。 ○硬。	F-10 旧河川 灰黑色粘質土層
59	底径 7.7	鉢の底部で、体部との境はくつきりしている。整形・調整ともに難である。	○紫灰色。内面にまばらな灰釉。 ○砂混り。 ○硬。	G-11 灰褐色砂質土層
60	底部11.2	底部より急な角度で立つ体部は、底部に比べ器壁は厚い。内面はヘラ削りの後ナデ調整。外面はヘラ削りの後ヘラで沈線を施す。	○赤味をおびた灰色。 ○やや粗い。 ○硬。	F-11 灰褐色砂質土層

壺

番号	法量(cm)	特徴	色調、胎土、焼成	備考
61	口径12.0 現存高 8.0	肩の張った壺で、直立する頸部に水平に広がり端部で上に肥厚する口縁部がつく。肩部に2条の沈線が施されている。口縁部・頸部はナデ調整。	○明灰色。灰釉はほとんど剥落している。 ○砂混りだが良質。 ○硬。	F-11 淡灰茶色砂質土層

おろし皿

番号	法量(cm)	特徴	色調、胎土、焼成	備考
62	口径12.8 底径 6.4 器高 3.5	片口のおろし皿で、内面と外面の口縁部・体部に釉がかかってガラス質を呈す。底部は糸切りである。	○淡緑色。 ○ごく微量の砂粒を含む精良な胎土。 ○硬。	F-12 旧河川 灰黑色粘質土層

椀

番号	法量(cm)	特徴	色調、胎土、焼成	備考
63	口径15.8 現存高 3.2	内窓ぎみの体部より外へ折れる口縁部で、境はナデの繰り返しの為に窪んでいる。体部外面はナデ調整。	○淡緑色 ○ごく微量の砂粒を含む精良な粘土。 ○硬。	F-12 旧河川 灰黑色粘質土層

番号	法量(cm)	特徴	色調、胎土、焼成	備考
64	口径10.1 現存高 4.4	ゆるいカーブの体部で口縁部はわずかに外反し、薄くなつて端部で丸くとじる。	○淡緑色の釉。 ○良質。 ○硬。	E-11 灰褐色砂質土層。

白 磁

番号	法量(cm)	特徴	色調、胎土、焼成	備考
65	口径14.5 現存高 2.7	小形の鉢の口縁部で丸みをもつて外へ肥厚する。肥厚した部分の下に1条の凸線が施される。	○磁胎は白灰色を呈し釉は淡白緑色でガラス質。 ○良質。 ○硬。	G-10 灰褐色砂質土層。
66	口径17.6 現存高 3.8	小形で器壁の薄い鉢で口縁部は段をもつて外へ丸く肥厚する。	○磁胎は白灰色、釉は淡白緑色でガラス質。 ○良質。 ○硬。	G-11 灰褐色砂質土層。

椀

番号	法量(cm)	特徴	色調、胎土、焼成	備考
67	高台径 6.6 現存高 4.2	外へ踏んばる丸い高台の付く底部で、外面の調整は比較的難である。	○磁胎は淡黄灰色、内面全体と外面の底から 3.3cm より上に釉。 ○やや粗い。 ○硬。	G-10 旧河川 灰黑色砂質土層。
68	高台径 5.0 現存高 3.8	高台端部は丸く少し外側に広がる。	○磁胎は白灰色、釉は淡白緑色でガラス質。 ○良質。 ○硬。	F-12 灰黑色粘質土層。

土製円板

番号	法量(cm)	特徴	色調、胎土、焼成	備考
69	径 2.5 厚さ 0.8	瓦質の円板で用途は不明。摩耗の為炭素はほとんどなくなっている。	○白灰色。 ○良質。 ○硬。	F-10 旧河川 灰黑色粘質土層。

滑石製石鍋

番号	法量(cm)	特徴	色調、胎土、焼成	備考
70	口径17.5 つば径21.0 現存高 3.7	わずかに内傾する平面をもつ口縁部。外面に台形の鋸状突帯を創出する。	○内・外面の剝離調整は著しく相違しており、内面は剝離調整があらく凹所を存し、外面は剝離調整も良好である。	F-10 灰褐色砂質土層。
71	巾 5.5 現存高 5.6 孔径 0.7	滑石製石鍋の鋸部周辺を方形に面取りを行なつた二次加工品である。口縁部直下に円孔が前面から穿孔している。	○内・外面に不定方向の櫛目条痕がほぼ全面にわたってみられる。 内・外面の剝離調整は良好である。	F-10 旧河川 灰黑色砂質土層。

砥 石

番号	法量(cm)	特徴	色調、胎土、焼成	備考
72	最大長 8.2 最大幅 3.7	断面方形、四面とも使用 上端部製造時の切り痕ある。 中央部付近に使用著しい。 中砥。		G-11 第7層出土。 珪質岩製。
73	最大長10.2 最大幅 4.9	断面長方形、四面とも使用 中央部付近に使用著しい 住上砥		F-12 第7層出土。 珪質岩製。

番号	法量(cm)	特徴	色調、胎土、焼成	備考
74	最大長 6.7 最大幅 3.3	断面長方形(薄板状)表面のみ使用。側面及び下端部製作時の切り痕ある。一部条痕が明らかに認められる。 仕上砥。		G-11 第7層出土。 粘板岩製。
75	最大長 6.7 最大幅 3.3	断面長方形(薄板状)表面のみ使用。側面及び上端部製作時の切り痕ある。一部かすかに条痕が認められる。 仕上砥。		F-11, G-11 砂出土。 粘板岩製。
76	最大長 6.5 最大幅 3.3	断面長方形(薄板状)表面のみ使用。側面及び上端部製作時の切り痕ある。一部かすかに条痕が認められる。 仕上砥。		F-12 第7層出土。 粘板岩製。
77	最大長 5.0 最大幅 1.3	小型の砥石で断面方形。表裏の2面とも使用。中央部付近に使用著しい。 仕上砥。		F-10 第4層出土。 粘板岩製。

石 鐵

番号	法量(cm)	特徴	色調、胎土、焼成	備考
78	長さ 4.3 幅 2.2 厚 0.65 重さ 5.8 (g)	凸基有茎式で並行剥離で丁寧に整形されている。		G-12 灰褐色 砂質層。

剝片石器

番号	法量(cm)	特徴	色調、胎土、焼成	備考
79	長さ 8.5 幅 5.3 厚 1.4 刃のつけ方 片面	一辺に刃をもつ不定形のサスカイト製の剝片石器で剝片の薄い側邊を選んで刃部としている。		F-11 淡灰 茶色砂質土層。

第2次調査地区

土師質皿

番号	法量(cm)	特徴	色調、胎土、焼成	備考
96	口径11.2 器高 1.8	平底で底部より比較的急に立ち上がり、口縁端部は丸くとじる。底部内面と体部内外面にナデ調整。底部外面は粗い。	○良質。 ○赤っぽい白黄褐色。 ○良好。	J-3 溝状 遺構 褐色砂質土層。
97	口径11.1 器高 2.0	平底で内面の底部と体部の境および外面の体部は繰り返しのナデ調整の為に窪んでいる。口縁端部は丸くとじる。	○赤っぽい白黄褐色。 ○良質。 ○良好。	K-6 Pit No.70褐色砂質土層。
98	口径10.8 器高 1.8	平底だが乾燥時に棒状のものの上に置かれた為に部分的に窪んでいる。底部と体部の境が不明瞭で、外反して口縁部にいたる。体部の外面は繰り返しのナデ調整の為に窪んでいる。	○赤っぽい白黄褐色。 ○良質。 ○良好。	K-6 Pit No.70褐色砂質土層。
99	口径 9.6 器高 1.3	器壁の薄い平底の皿で、外反する体部で口縁端部で上方へ肥厚して丸くとじる。外面の体部より上と内面の全体をナデ調整している。	○白色褐色。 ○良質。 ○良好。	H-8 素掘 井戸。
100	口径 8.4 器高 1.1	平底で体部は外反し口縁端部は丸くとじる。内面の体部と底部の境は丸くナデずに強く6回に分けてナデている為に上から見ると6角形を呈する。口縁部外面と内面の全体をナデ調整。	○赤っぽい白黄褐色。 ○良質。 ○良好。	I-6 石組 井戸。

瓦器椀

番号	法量(cm)	特徴	色調、胎土、焼成	備考
101	口径11.2 器高 3.3	カーブをもって立ち上がる体部で口縁部は薄くとじる。高台は粘土を指先でぬり付けた程度のもの。口縁部外面をナデ調整。内面に時計回りの暗文を10条。	○暗灰色。 ○良質。 ○硬。	J-3 Pit No.6 褐色砂質土層。
102	口径11.4 器高 3.5	重みの大きい瓦器椀で、端部内面に1条の沈線をもつ口縁部で、体部は比較的直線的。退化した貼り付け高台は、底面の方が下位にある為に機能を果していない。内面はナデ調整の後、10数条の暗文。	○暗灰色。 ○良質。 ○硬。	K-4 Pit No.33 褐色砂質土層。
103	口径12.5 高台径 3.4 器高 4.1	外反する口縁部で端部に1条の沈線が施されている。内外面とも外反する部分にナデ調整。内面に8~10条の暗文。全体に摩耗がひどい。	○暗灰色。 ○良質。 ○硬。	J-4 溝状 遺構 褐色砂質土層。

羽釜

番号	法量(cm)	特徴	色調、胎土、焼成	備考
104	口径26.8 つば径33.0 現存高 4.5	内湾する口縁部はしだいに薄くなっている。端部は丸くとじる。断面が長方形のつばは上方へ向いている。口頭部は内外面ともに丁寧なナデ調整。	○灰色。 ○砂粒を多く含む。 ○硬。	J-3 Pit No.3 褐色砂質土層。
105	口径26.8 つば径34.6 現存高 6.5	直線的で長い口頭部は内傾し、段をもち、端部は内へ肥厚する。つばはしだいに薄くなり端部は丸い。内面と外面の口頭部にナデ調整。	○内面は灰色、外面は口頭部が灰黒色で体部は灰白色。 ○砂粒を含むが良質。 ○硬。	K-4 褐色砂質土層。

足釜の足

番号	法量(cm)	特徴	色調、胎土、焼成	備考
106	径 2.4 現在長15.0	貼り付け部分は楕円形で下方では円形となる。全体にナデ調整。	○灰黒色。 ○良質。 ○硬。	I-6 石組 井戸。
107	径 2.0 現在長10.3	貼り付け部分より剥離したもので、全体にナデ調整が施されている。	○灰色。ススが付着。 ○砂粒を含む。 ○軟。	I-6 石組 井戸。

香 炉

番号	法量(cm)	特 徴	色調、胎土、焼成	備 考
108	口 径19.4 現存高 4.1	内弯する口縁部は端部で肥厚し丸くとじる。外面に1条の沈線と断面三角形の貼り付け凸帯。内外面ともナデ調整。	○淡黄褐色、断面は赤味をおびている。 ○良質。 ○硬。	I-6 石組井戸。

鉢

番号	法量(cm)	特 徴	色調、胎土、焼成	備 考
109	口 径33.5 現存高10.2	片口の鉢で、直線的な体部で口縁端部で極端に肥厚する。体部外面はナデ調整が施されるが、輪積みの痕がくっきりと残る。内面は不定方向のナデ調整。	○暗灰色。口縁部外面に灰釉。 ○良質。 ○硬。	I-6 石組井戸。
110	口 径29.8 現存高 7.3	やや内弯ぎみの体部で口縁部で肥厚する片口の鉢。外面は雑なナデ調整で整形時の指先による凹凸が残る。内面は口縁部がナデ調整の繰り返しの為に窪んでいる。	○暗灰色。口縁部外面に灰釉 ○良質。 ○硬。	I-6 石組井戸。

皿

番号	法量(cm)	特 徴	色調、胎土、焼成	備 考
111	口 径17.4 器 高 2.7 高台径 9.4 高台高 0.7	ごく浅い皿で高台からゆるく立ち上がり、外反したのち端部で薄くとじる。高台は貼り付け。	○淡緑色の釉。 ○良質。 ○硬。	K-4 暗色砂質土層。

甕

番号	法量(cm)	特 徴	色調、胎土、焼成	備 考
112	口 径14.0 刷 径15.9 器 高16.1	(口縁部) 接合痕を残した基部から外上方へのびる口縁部は胴部に比べて器壁が厚く、内面に刷毛目が残るが外面は摩耗の為はっきりしない。 (胸部) 肩の張らない球形で最大径はほぼ中位にある。外面全体に刷毛目が残り、内面は指先による窪みや粘土紐の接合痕が残る。 (底部) 丸底で外面に乱方向の刷毛目。	○淡茶褐色で赤褐色と灰黄褐色のまだらがある。 ○0.1~0.5cm の砂粒を非常に多く含む。体部2ヶ所に加熱による黒色斑と赤色に変更した部分がある。 ○良好。	J-4 Pit No.42 暗色砂質土層。

無蓋高壺

番号	法量(cm)	特 徴	色調、胎土、焼成	備 考
113	口 径16.8 脚部高 6.0 脚部径 5.8	外反する口縁部は薄く端部は丸い。口縁部と体部とは断面が三角形を呈する2条の内帯によって区切られ、内帯の下に7条の波状文からなる文様帯を施している。内帯と文様带上に把手耳を貼り付けている。四方のスカシをもつ脚部は欠失。	○暗灰色。 ○ごく少量の砂粒を含む精良な粘土。 ○硬。	K-4 暗色砂質土層。

高 壺

番号	法量(cm)	特 徴	色調、胎土、焼成	備 考
114	脚 径 3.5 脚 高 6.0 底 径 8.5	基部は細く外弯し端部は丸くとじる。3方向に6~7mmの円孔を穿つ。	○青灰色。 ○良質。 ○硬。	J-2 落ち込み状造構褐色砂質土層。

石 錆

番号	法量(cm)	特 徴	色調、胎土、焼成	備 考
115	長さ 3.0 幅 2.3 厚 0.5 重さ2.15 (g)	四基無省式で並行割離で丁寧に整形されている。		K-4 暗色砂質土層

第3次調査地区

土師質皿

番号	法量(cm)	特徴	色調、胎土、焼成	備考
116	口径11.4 器高 2.1	重な平底で体部は外反し、口縁端部は丸くとじる。外面の体部と口縁部に雑なナデ調整、内面も全体に粗雑な為に重である。	○全体に暗黄褐色、火むらの為黒っぽい部分あり。 ○少量の砂粒を含むが良質。 ○良好だが火むらあり。	D-13 淡褐色砂質土層。
117	口径11.2 器高 2.7	比較的深い皿。乾燥時に棒状のもの上に置かれたらしく圧痕が残る。底部より折れて外反する体部は肥厚し、口縁部はナデ調整の為に薄い。体部下位の外面は指圧痕が残る。内面は底部を一方的にナデた後、体部をナデ調整。	○黄褐色。 ○良質。 ○良好。	F-15 4号井戸。
118	口径11.8 器高 2.5	平底の比較的深い皿で、外反ぎみに外上方へのびる体部で口縁部で肥厚して端部は丸くとじる。指先で全体に整形した後、口縁部の外面と内面の全体をナデ調整している。体部は横方向、底部は一定方向。	○淡黄褐色。 ○良質。 ○良好。	F-15 4号井戸。

土師質小皿

番号	法量(cm)	特徴	色調、胎土、焼成	備考
119	口径 8.0 器高 1.2	尖がり気味の底部をもつごく浅い皿で体部は外反する。体部の内外面ともにナデ調整が施されているが摩耗がひどい。	○赤っぽい黄褐色。 ○良質。 ○良好。	D-14 淡褐色砂質土層。
120	口径 7.4 器高 1.4	丸底の底部で体部は内湾ぎみに立ち上がり口縁端部は丸くとじる。全体を指先で整形した後、体部外縁を横方向、内面は同心円状に中央から外へ向ってナデ調整。1ヶ所強くナデしているので渾んでいる。	○全体に淡黄褐色で赤褐色斑がある。 ○良質。 ○良好。	F-14 3号井戸。
121	口径 8.5 器高 1.6	重な底部はやや尖りぎみで外反する体部は肥厚し口縁端部は丸くとじる。雑な整形でキズが多く、外面の体部中位より上と内面にナデ調整が施されるが雑である。	○赤っぽい白黄褐色。 ○良質。 ○良好。	F-14 3号井戸。
122	口径 8.3 器高 1.5	平底で外反ぎみの体部は整形時の指圧痕が残る。外面の体部上位より上にナデ調整。内面は摩耗。	○赤っぽい白黄褐色。 ○良質。 ○良好。	D-14 淡褐色砂質土層。
123	口径 8.3 器高 1.5	平底で底部と体部の境がはっきりせず、体部は内湾ぎみにたつ。体部外面にナデ調整が施される。内面は摩耗の為に不明。全般的に摩耗がはげしい。	○赤っぽい白黄褐色。 ○良質。 ○良好。	C-14 褐色砂質土層。
124	口径 8.0 器高 1.5	波をうった底部で外上方へ直線的にのびる体部より外反ぎみにのびる口縁部は端部で丸くとじる。外面の体部上位にナデ調整。内面は摩耗の為に不明。	○赤っぽい白黄褐色。 ○良質。 ○良好。	C-13 褐色砂質土層。
125	口径 8.2 器高 1.3	波をうった底部で体部は直線的に開きぎみにのびる。口縁部付近で薄くなる。外面の体部上位より上にナデ調整。内面は摩耗の為に不明。	○赤っぽい白黄褐色。 ○良質。 ○良好。	D-14 褐色砂質土層。
126	口径 8.2 器高 1.8	比較的深い皿。大きく波をうった底部で体部は外反する部分と内湾する部分があり、口縁部でやや肥厚する。内外面ともに摩耗がひどく調整は不明。	○白黄褐色。 ○良質。 ○良好。	F-14 3号井戸。
127	口径 8.2 器高 1.6	整形が極めて雑な為外面が凹凸の小皿。指圧痕を残す平底で体部は底部よりくびれた様にして外反して立ち上がる。内面は時計回りのナデ調整、外面は口縁部のみ雑なナデ調整。	○灰黄褐色。 ○良質。 ○良好。	E-14 Pitt No.1 褐色砂質土層。

瓦器椀

番号	法量(cm)	特徴	色調、胎土、焼成	備考
128	口径11.1 器高 3.4	粘土を指先で塗り付けた程度の高台の付くもので体部はカーブをもつて立ち口縁端部は丸くとじる。口縁部の内外面をナデたのち、体部内面にらせん状の暗文を施す。	○内面は銀灰色、外面は灰黒色。 ○良質。 ○硬。	D-14 淡褐色砂質土層。
129	口径12.1 器高 4.0	断面が三角形の退化した貼り付け高台の付くもので口縁端部に1条の沈線。整形が雑な為に外面は凸凹である。内面にナデ調整の後ヘラでらせん状の文様をつけるが炭素が吸着していないので暗文にならない。	○黄白色。 ○微量の砂を含むが良質。 ○やや軟。	D-14 淡褐色砂質土層。
130	口径11.3 器高 3.4	高台の付かない尖がりぎみの底部で体部は直線的にたち上がる。口縁端部は丸くとじる。内面は丁寧なナデ調整の後5条の暗文を施す。外面は摩耗の為はつきりしない。	○内面の体部・底部にのみ炭素吸着、他は白灰色。 ○良質。 ○硬。	G-13 深褐色砂質土層。
131	口径 9.8 器高 3.8	高台の付かない尖がりぎみの底部で体部はあまりカーブをもたずに立ち上がり端部は尖がりぎみにとじる。内面にナデ調整の後ヘラでらせん状の文様が施されるが、炭素が吸着していないので暗文にならない。	○口縁部にのみ炭素吸着、他は白灰色。 ○微量の砂粒を含むが良質。 ○硬。	G-13 深褐色砂質土層。
132	口径 9.3 器高 3.3	高台の付かない小形のもので整形が雑な為に体部中位で段をもち、内外面に凸凹である。口縁端部は丸くとじる。縁部外面と内面に不定方向の雑なナデ調整。内面に右回りのらせん状の暗文が12~13条。	○内面の半分と外面の口縁部付近に炭素が吸着。 ○良質。 ○硬。	F-15 4号井戸。
133	口径 9.3 器高 3.2	高台の付かない小形で器壁の薄いもの。口縁端部には浅い沈線が1条。内外面ともに炭素の吸着はまばらで、摩耗の為に調整、暗文は不明。	○白灰色と灰黒色のまだら ○砂混りだが良質。 ○軟。	G-15 深褐色砂質土層。

羽釜

番号	法量(cm)	特徴	色調、胎土、焼成	備考
134	口径16.5 つば径22.7 現存高 4.2	内湾する口縁部は端部に平面をもつ。つばは断面が台形で短く上向きに付く。内外面ともにナデ調整。	○白っぽい灰褐色、外面つばより下にスス付着。 ○良質。 ○やや軟。	E-14 Pit No.1 褐色砂質土層。
135	口径23.0 つば径27.4 胴 径26.6 現存高 6.4	内湾ぎみの口縁部は端部で立ち上がり平面をもつ。つばを貼り付けた後に繰り返しナデしている為につばの下に窪みがある。その窪みより上と内面に丁寧なナデ調整。	○光沢のある灰黒色。胴部にスス付着。 ○砂粒を含むが良質。 ○硬。	C-13 淡褐色砂質土層。
136	口径28.4 現存高22.0	口縁部は長く直線的で内傾する。口縁端部はナデの為にやや窪む。つばは、水平に付くが先端部欠失。胴部はヘラ削りの後未調整で器壁は粗い。つばの下にヘラ削りの為に1条の沈線がつく。内面と外側のつばより上に丁寧なナデ調整。	○灰黒色、胴部にスス付着。 ○良質。 ○やや軟。	E-14 深褐色砂質土層。

鉢

番号	法量(cm)	特徴	色調、胎土、焼成	備考
137	口径32.8 現存高 6.7	直線的にのびる体部で口縁部で肥厚する。口縁部内面は繰り返しのナデ調整の為に凹んでいる。口縁部外面もナデ調整。	○暗灰色。口縁部外面に灰釉。 ○良質。 ○硬。	F-15 深褐色砂質土層。

土製円板

番号	法量(cm)	特徴	色調、胎土、焼成	備考
138	径 2.1 厚さ 0.25	土師質の円板で用途は不明。	○灰黄褐色。 ○良質。 ○硬。	G-13 黄褐色砂質土層

観

番号	法量(cm)	特　　徴	色調、胎土、焼成	備　考
139	現存長 7.6 幅 3.6 厚さ 1.7	粘板岩製の硯と思われる。陸部が一部剥離しており、陸部右側に使用痕である大きな瘤みがありその部分から一部剥離している。		D-14 淡褐色砂質土層。

砥 石

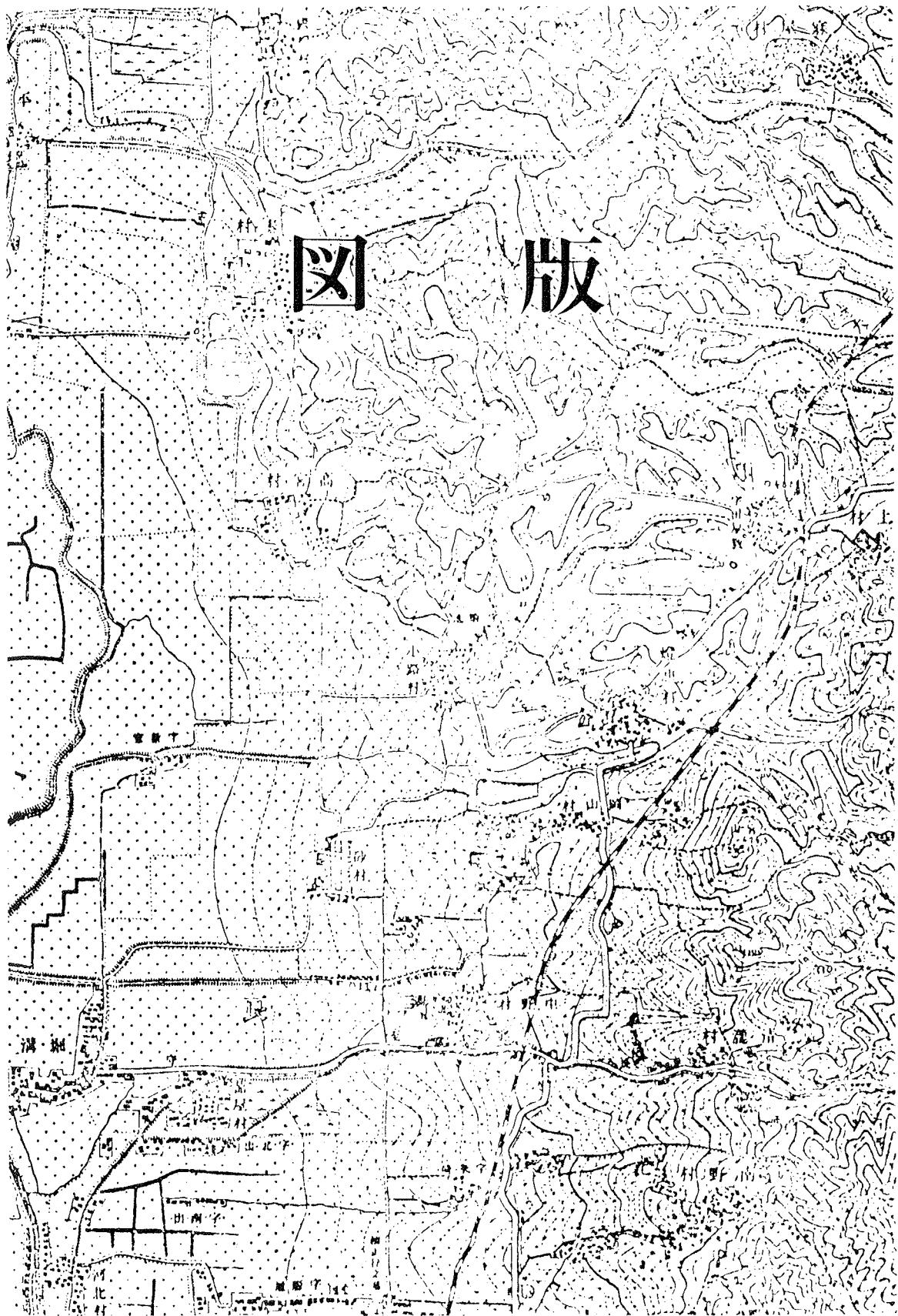
番号	法量(cm)	特　　徴	色調、胎土、焼成	備　考
140	最大長 6.1 最大幅 4.6	断面方形。四面とも使用。中央部付近に使用著しい。 中砥。		F-13 石組 造構第4層下 層出土。 珪質岩製。
141	最大長 8.2 最大幅 5.1	断面方形。三面使用。中央部付近に使用著しい。 荒砥。		G-13 第5 層出土。 砂岩製。
142	最大長 9.7 最大幅 3.5	断面長方形(薄板状)表・裏の2面とも使用。側面及び下端部製作時の切り痕ある。中央部に使用痕が認められる。 仕上砥		F-13 第3 層出土。 石板岩製。

剝片石器

番号	法量(cm)	特　　徴	色調、胎土、焼成	備　考
143	長さ 8.9 幅 5.7 厚 2.6 刃のついた方 片面	一辺に刃をもつ不定形のサヌカイト製の剝片石器で、剝片の末端側に鋭い刃をつけている。		

义

版

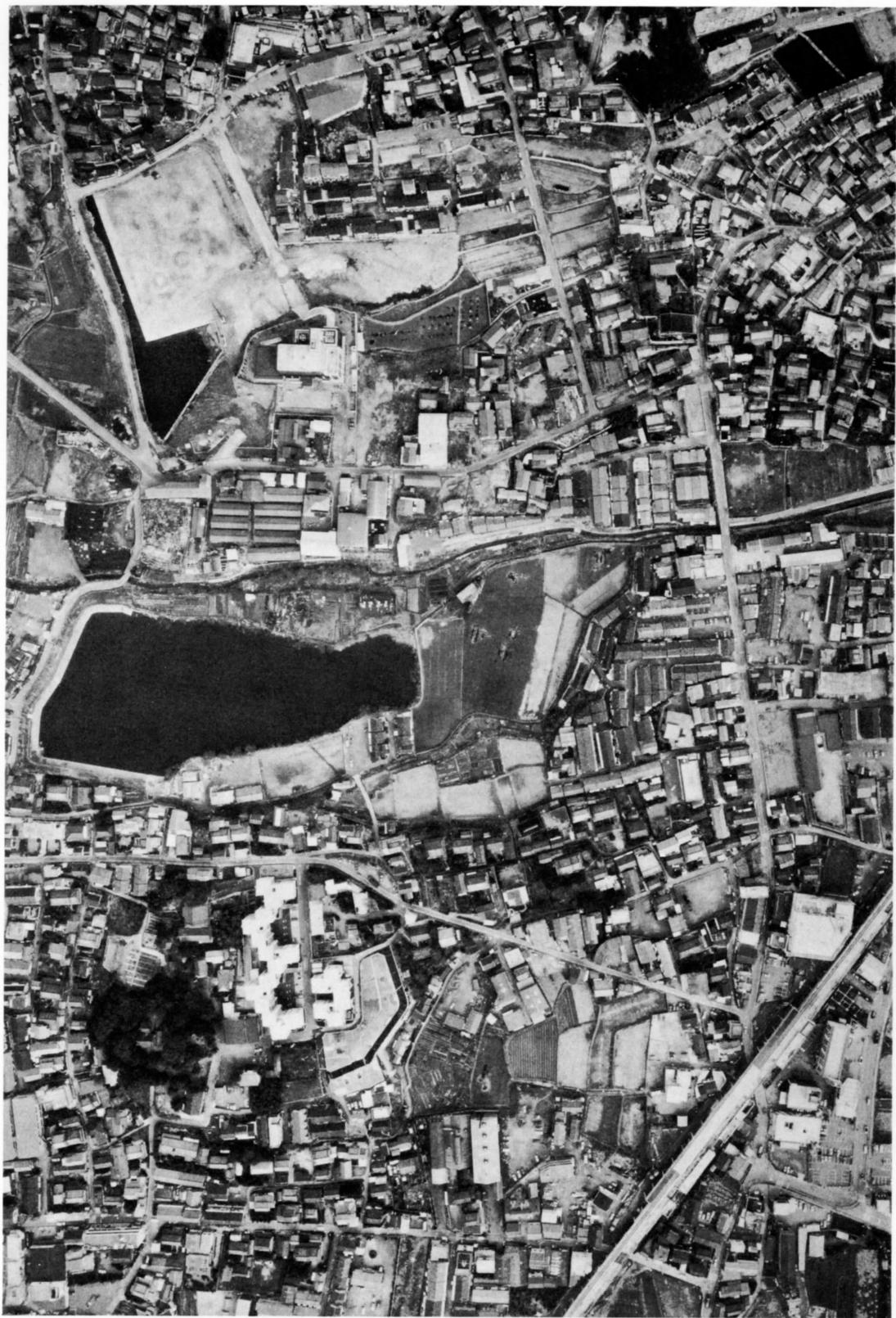


図版1 遺跡周辺の航空写真



1970・3・9 大東航空測量 K・K撮影

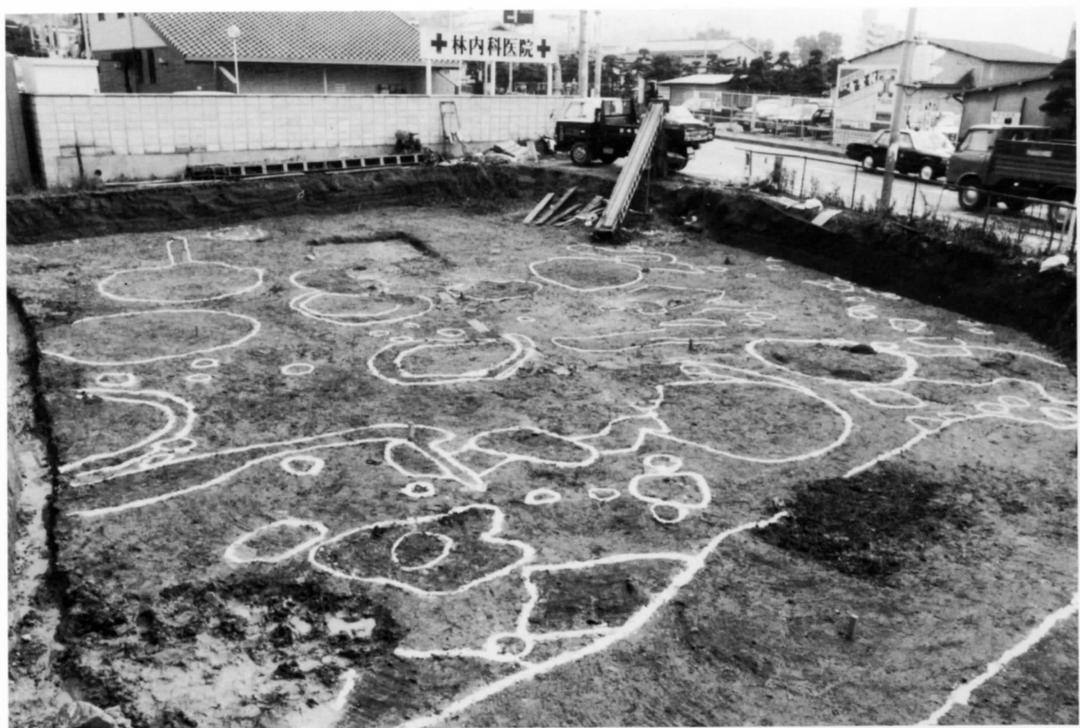
図版2 忍ヶ丘駅前遺跡周辺航空写真



1979・2・15 アジア航測K・K撮影



図版4 遺構検出状況

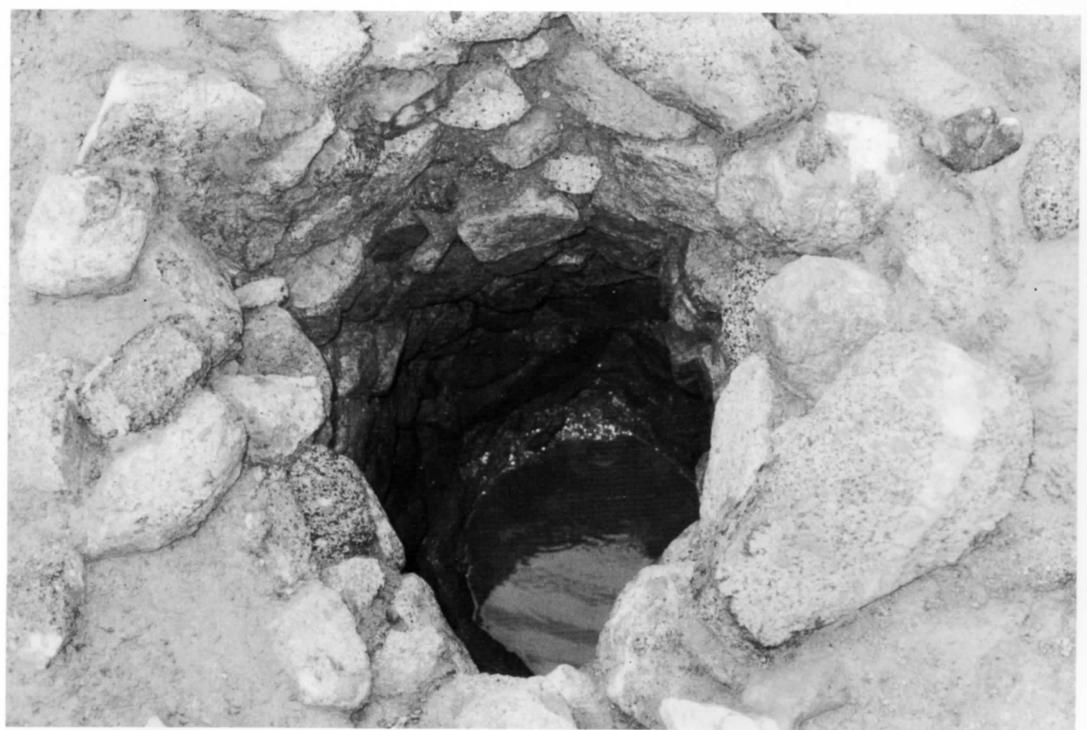


図版 5 遺構全景





図版7 石組井戸 (SE-OO-) 全景





SE-003



SE-005



SE-006



SE-007



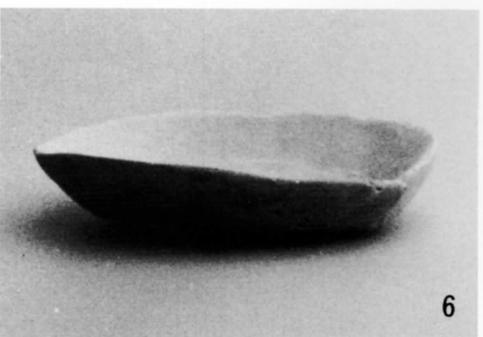
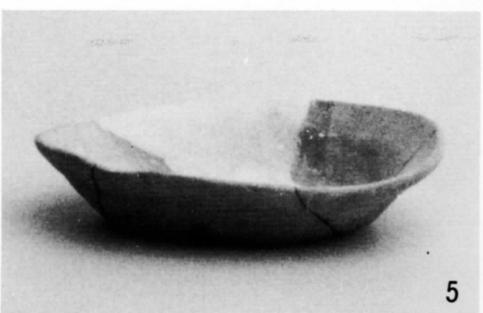
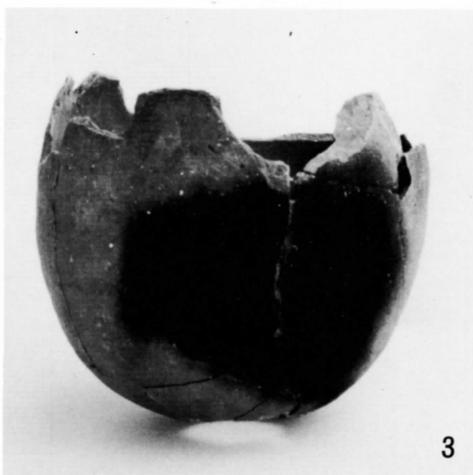
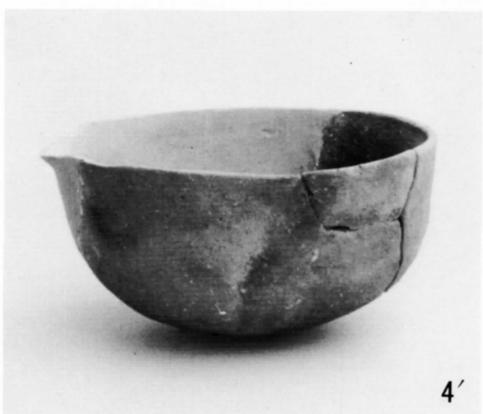
SE-008



SK-002

第7次調査

図版 11 遺物写真・土器 I



第7次調査

図版12 遺物写真・土器II-石製品



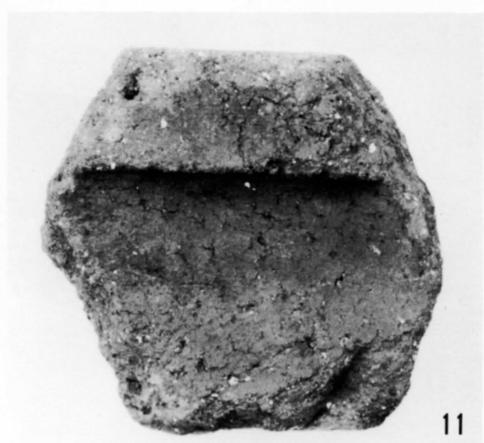
7



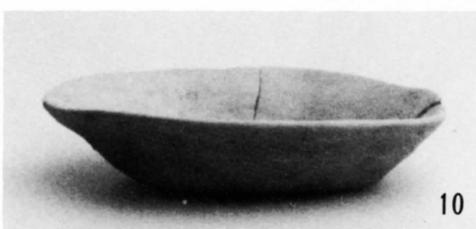
8



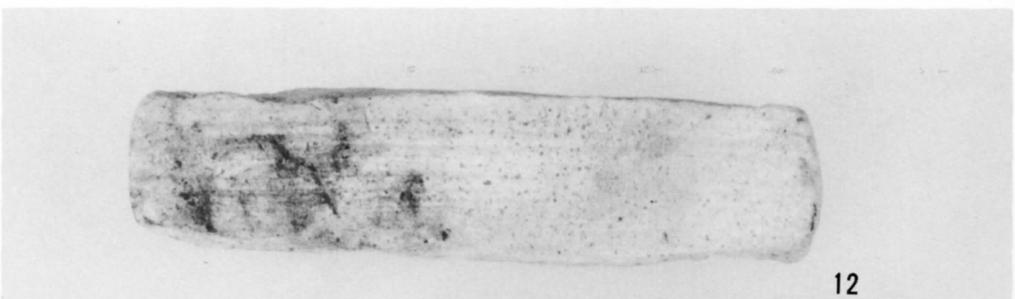
9



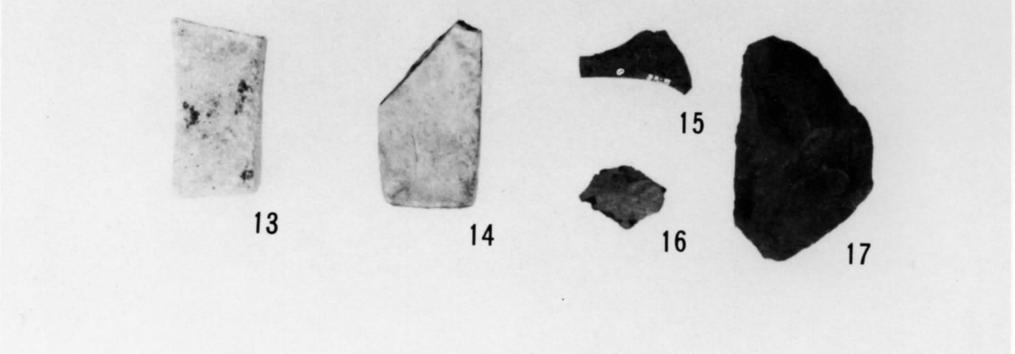
11



10



12



13

14

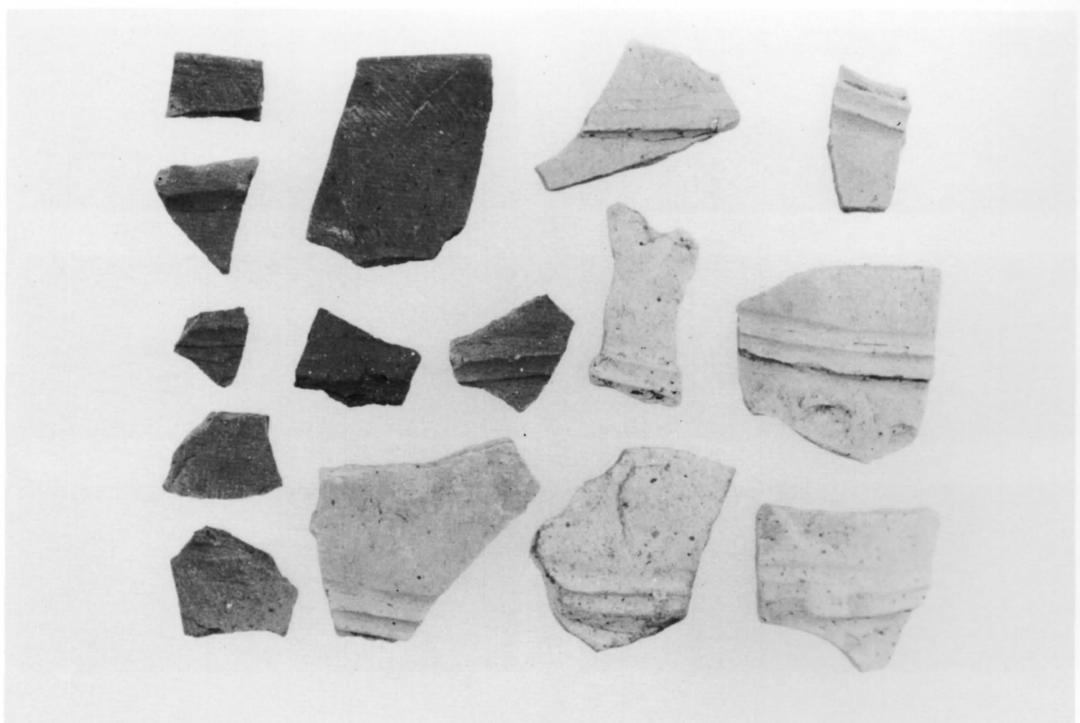
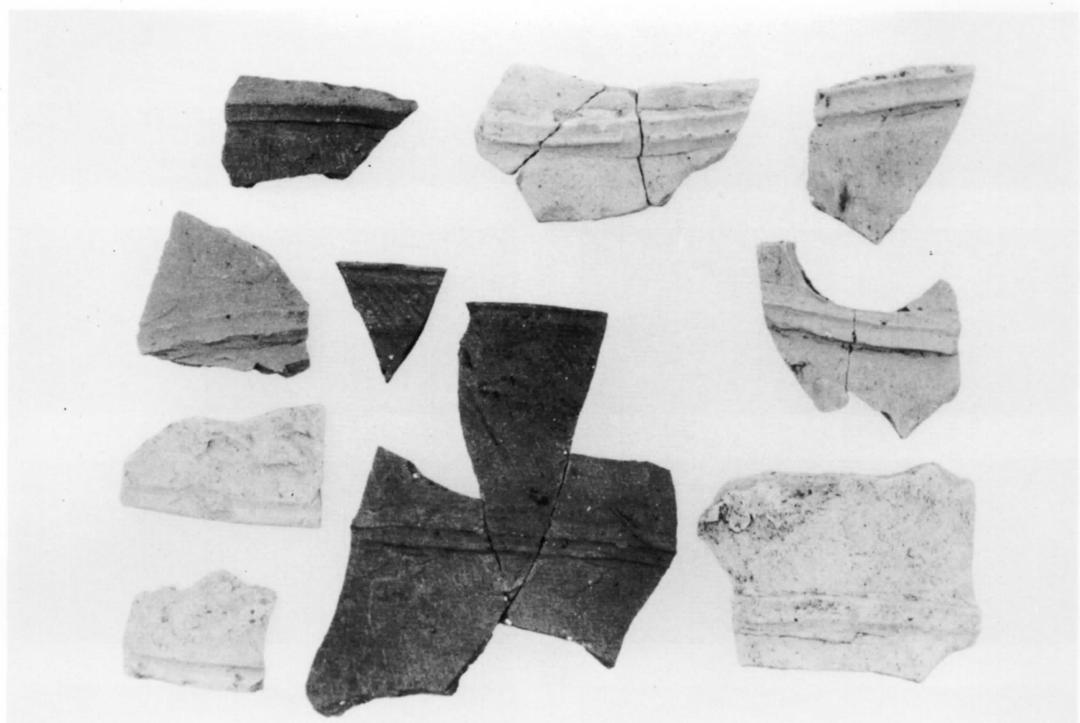
15

16

17

第7次調査

図版 13
遺物写真・埴輪



第1次調査

図版
14

遺物写真・土器III



1



2



3



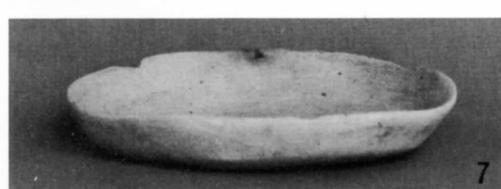
4



5



6



7



8



9



10



11



12



13



14

第1次調査

図版
15

遺物写真・土器IV



第1次調査



29



30



31



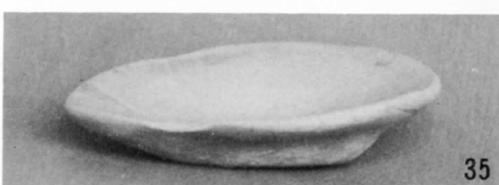
32



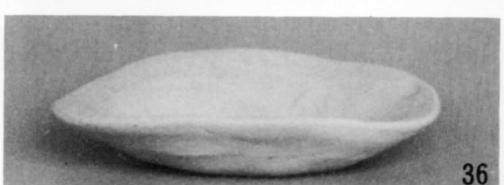
33



34



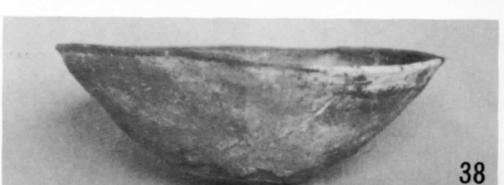
35



36



37



38



39



40

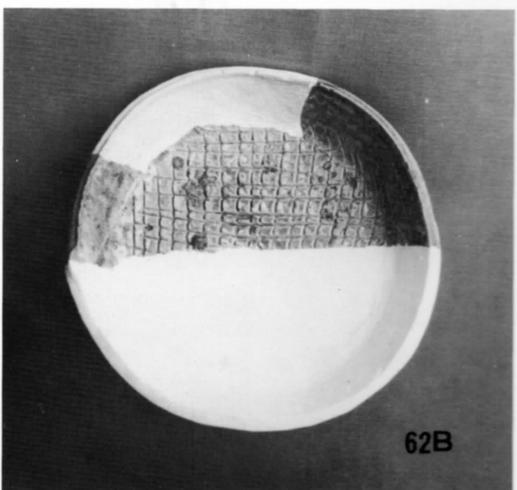
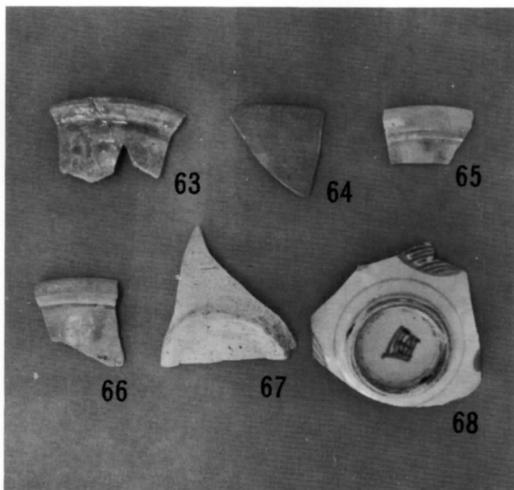
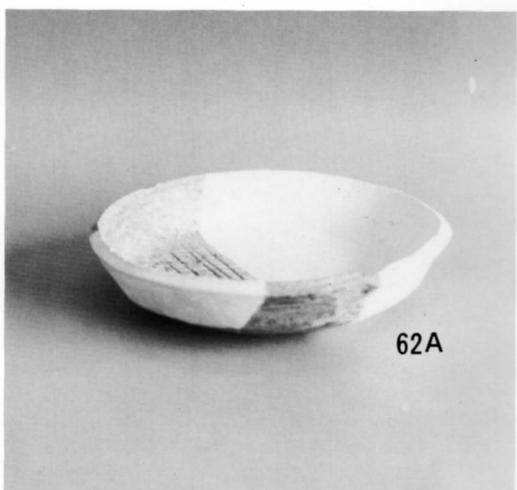
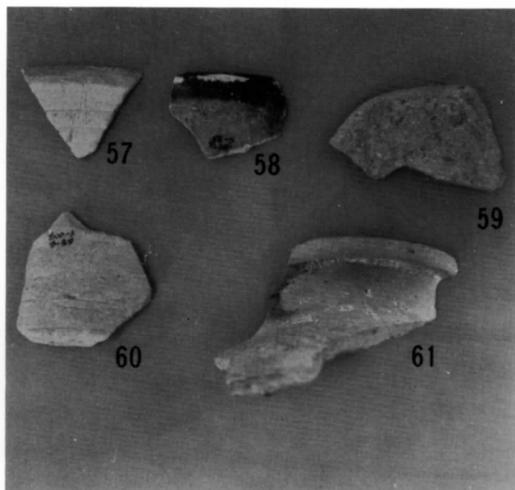
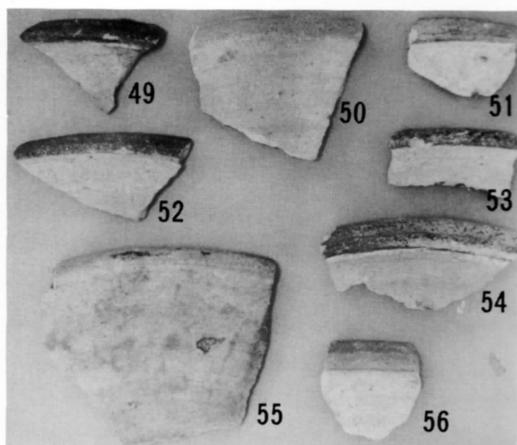
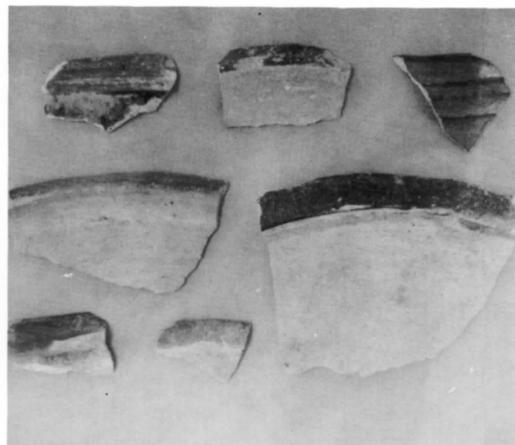


41

第1次調査

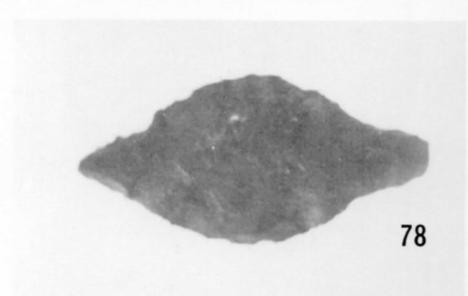
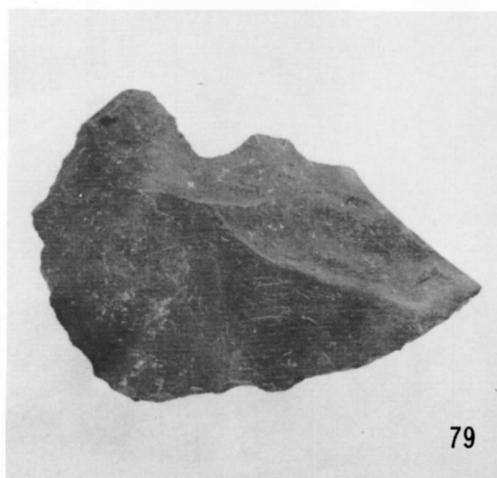
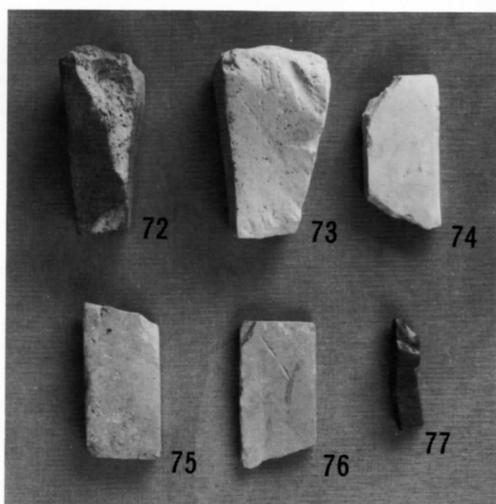
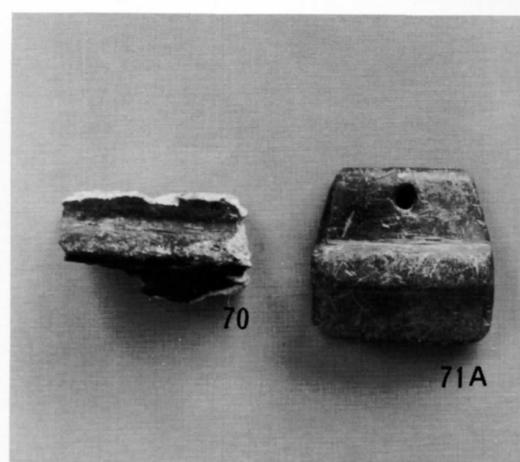
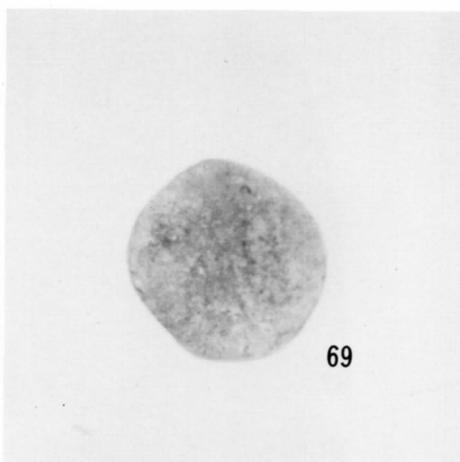
図版 17

遺物写真・土器VI



第1次調査

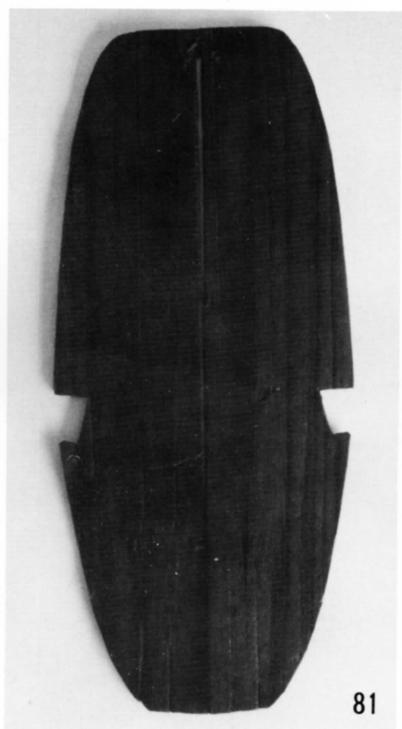
図版 18 遺物写真・土製品・石製品



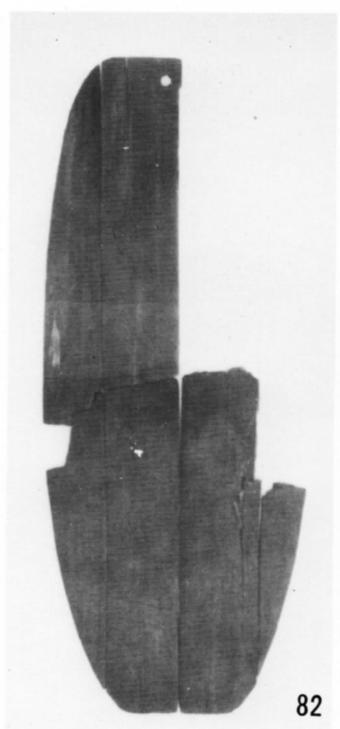
第1次調査

図版
19

遺物写真・木製品Ⅰ



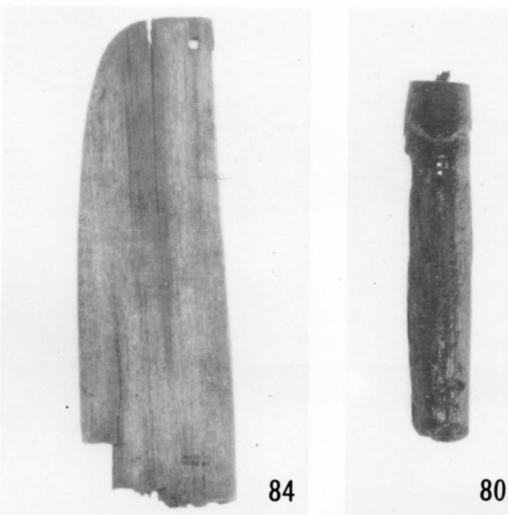
81



82

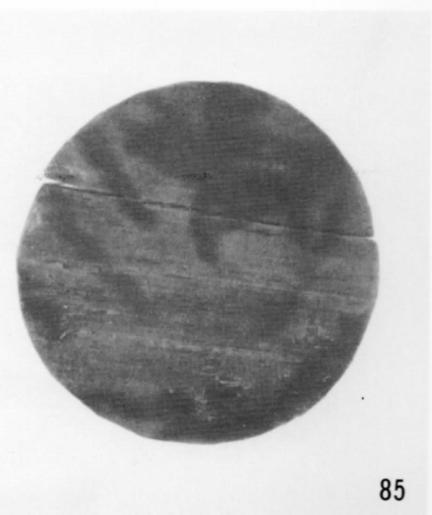


83

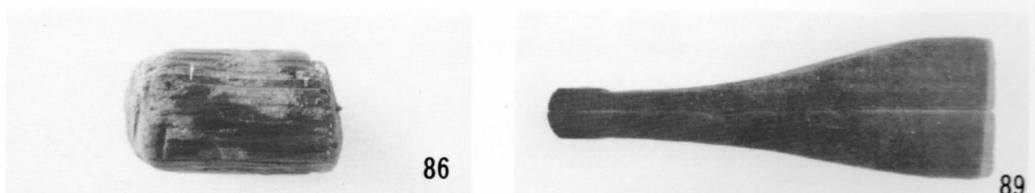


84

80



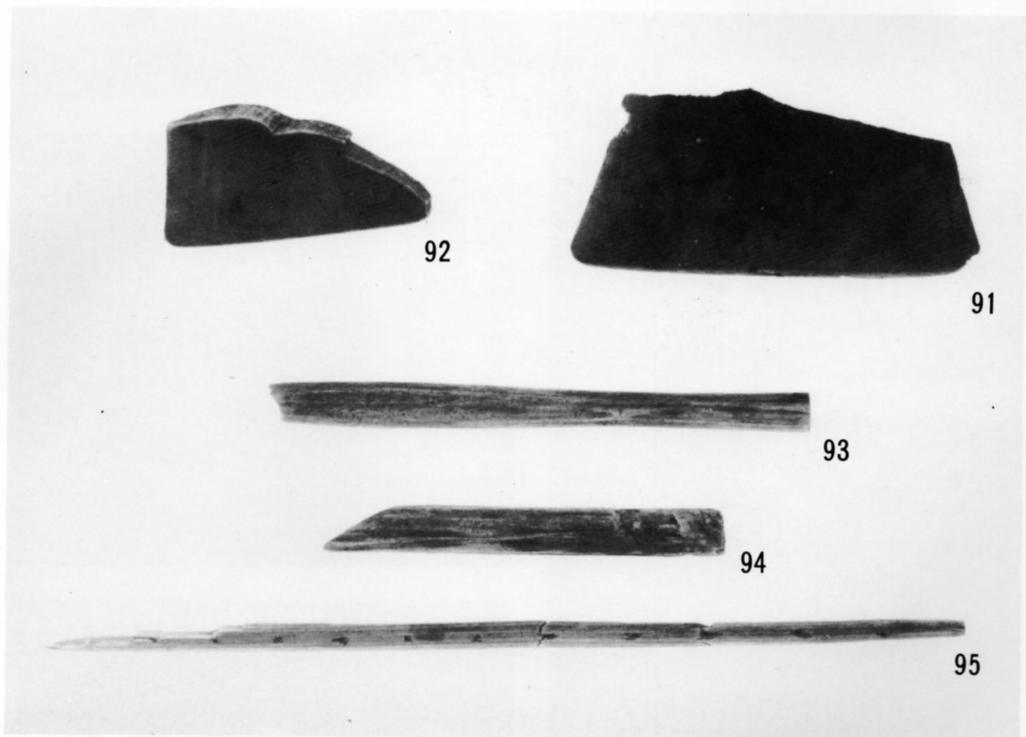
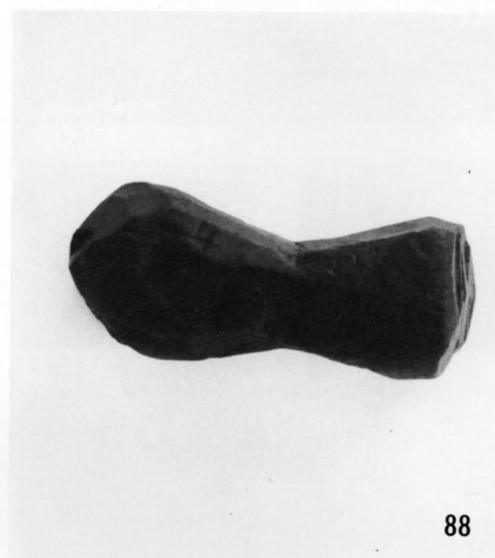
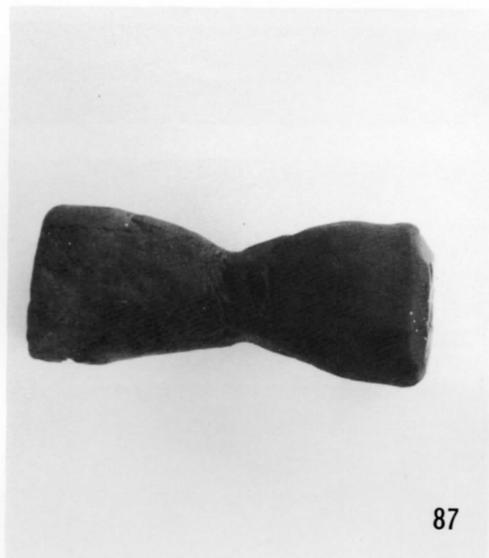
85



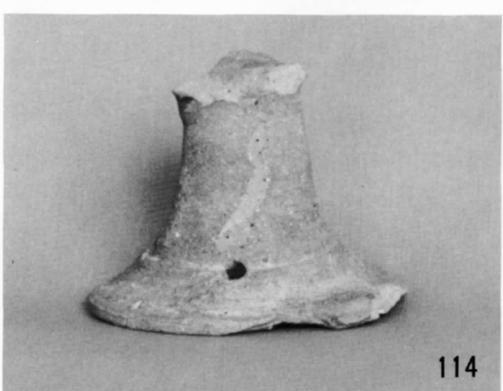
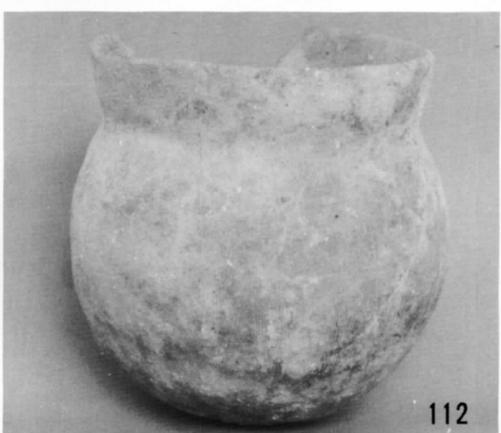
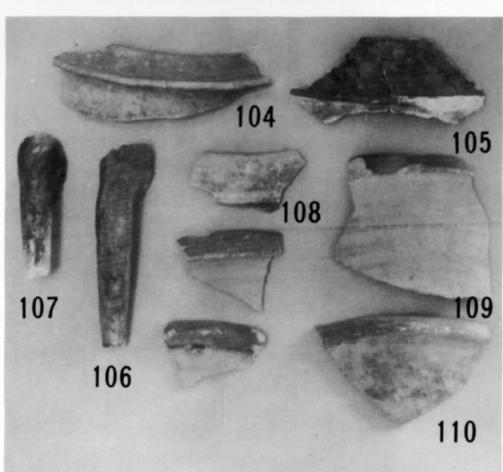
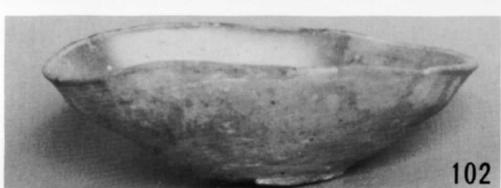
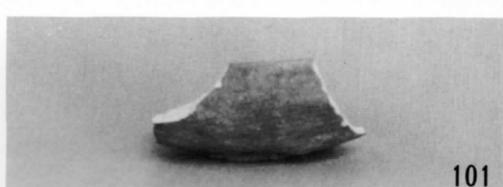
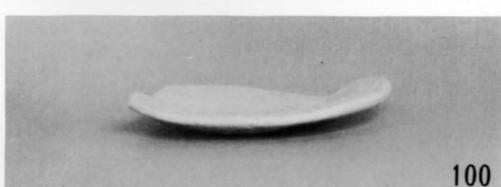
86

89

第1次調査



第2次調査



第3次調査



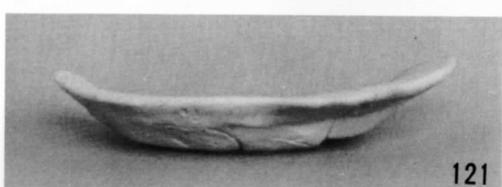
117



118



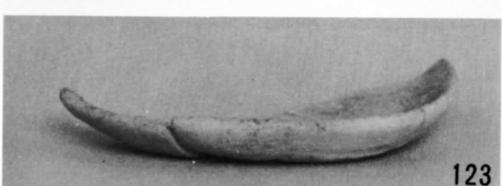
120



121



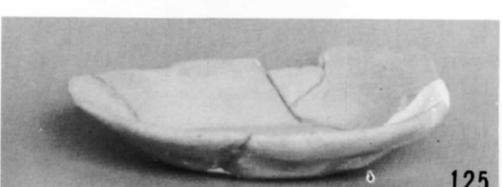
122



123



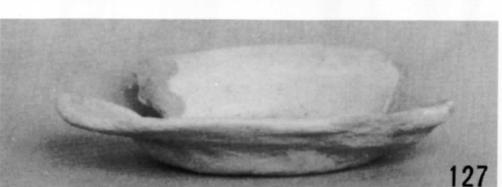
124



125



126



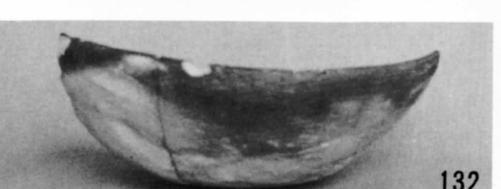
127



129

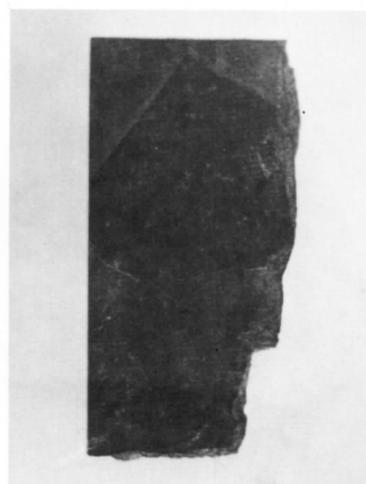
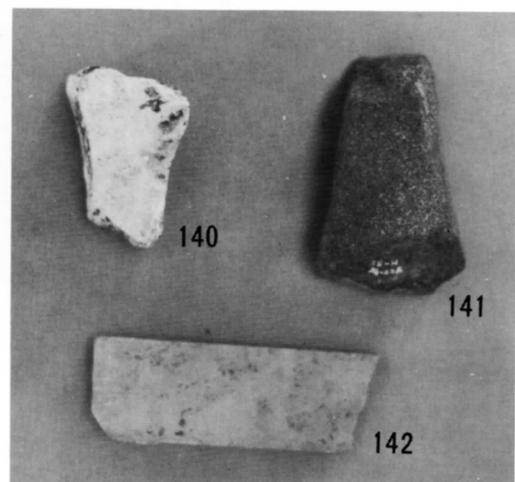
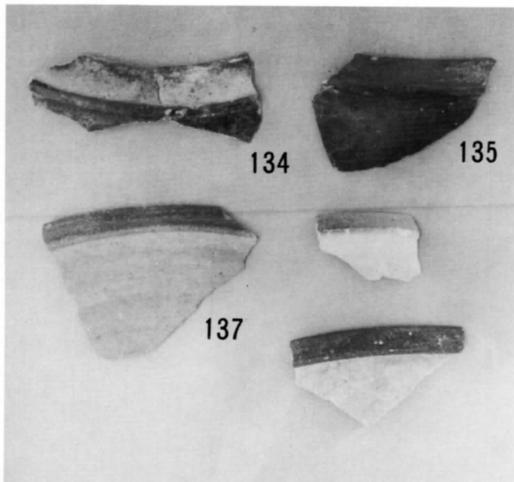


131



132

第3次調査



忍ヶ丘駅前遺跡発掘調査概要・Ⅱ

昭和58年3月発行

編集 四條畷市教育委員会

発行 四條畷市教育委員会
四條畷市中野本町1-1

印刷 田中耕株式会社